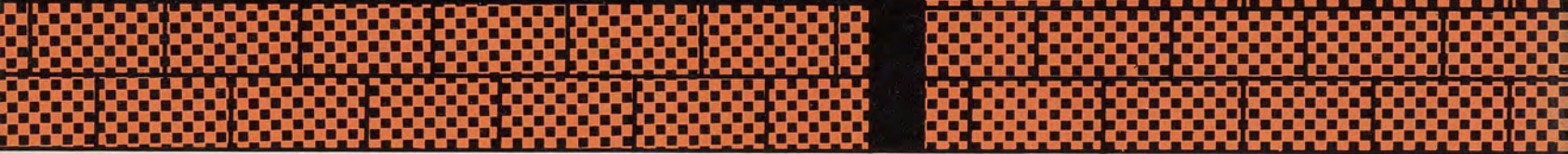


澁江



目次

澁江第6号発行にあたって……………渡辺 達好…2

法人にも生命権……………田岡嘉寿彦…3

同窓会本部だより……………4

総会延期と役員改選、昭和44年度決算と45年度予算

同窓会支部だより……………7

各地で相ついで盛大に支部総会開催

福井支部 九州支部 東海支部

姫路支部 岡山支部 大阪市役所支部

高松支部 山口支部 丹有支部

大北文次郎先生急逝される……………12

学園紛争日記……………17

月ごとのたより……………18

学園人事……………21

新しい大学像を求めて……………荒牧 博之…22

故北岡先生・故葛間君のこと……………23

黒正先生に捧ぐ……………大森喜太志…29

あのころのこと「発展期」

大学昇格にすべてを……………30

北から南から——同窓生短編集……………34

46年度入学試験要項、編集後記……………38

グラビヤ

戦いすんで……………13

無残なりわが学舎……………15

同窓会も入試に一役……………25

2つの対比……………28

学歌 道達歌……………39

表紙説明、静かなる学園口東端から西をのぞむ

澁江第六号発行にあたって

同窓会理事長 渡辺 達好

一九七〇年代を迎えて、国内、国外での社会的現象は変動に次ぐ変動という誠に目まぐるしい移り変わりである。その環境の中にあつて、国内の一小企業に携つていゝものが時勢に竿さして行こうと思えばその苦勞は並大低のことはない。変遷極りないこの時勢を何とか生き抜こうとすれば渾身の勇氣と努力を傾注せざれば瞬く間に泡の如く消え去らざるを得ないのが現状ではないかと思う。同窓生諸君も此のむつかしい環境の中にあつてある者は順境の中に、ある者は逆境と闘いながら奮闘されていること、思う。機会あるごとに各地の同窓会支部の総会に出席させてもらっているが、たくましくも会員の諸君がそれぞれ旺盛な氣力をもって自己の職業に専心努力

されている趣を拝聴し誠に頼母しい限りである。

同窓会本部企画の年一回の同窓会誌「澁江」の発行が出来上り各位にお届け出来ることを何よりと思つてゐる。衷心から本部編集部長各位の犠牲的ご奉仕と努力に対し敬意と感謝を表する次第である。なおまた全国各地の支部並びに各会員から寄せられた、玉稿に対しても心からお礼を申し上げたい。

最近の本学関係の状況については各種報道関係のニュースその他により大方ご承知の方もありと思うが昨年九月以来、本学学生のほんの一部が行つてゐる学生活動は正に尖鋭的でありかつ全国の多くの大学と同様本学においても学園封鎖がおこり、本年一月止むなく機動隊の導入が行はれ、以来一応平

穏には復したものの、いぜん学内の学生運動の動向には予断を許さぬものがあるといえよう。この間藤田敬三学長の辞任という問題をも招来し、現在は大北文次郎教授が学長事務代行ということになつてゐるが、長年斗病生活を続けてこられた大北先生の体力を考えると實に氣の毒でありまさに非常の時に遭遇してゐるといはねばならぬ。考えれば最近の学生運動の姿の中には理解出来る点も無いではないが、いささか時流におもねた不穩な挙動があるのではないかと思う。今日の若年層殊に最近の学生層の思想傾向はかつてのわれわれの時代とはおよそ似ても似つかぬ傾向にあり、このことについてはわれわれも常に世界全体を眺めて充分認識して行かねばならない。

時勢の変革がもたらす、国際社会の大きな現象であるかも知れぬが、しかし今日ハイジャックにみられたいわれる赤軍派と称する群やその他の過激派の行動は容易に理解出来ないものがある。同窓生諸君には母校の現在及び将来について大いに心配をいただいてゐるものと思つて、今ほど学校法人の役員、諸先生方、特に学内諸先生方より大きなお力添え以外に学園を維持、発展させる方法はないと思つて、私共卒業生の何人かが皆さんの中から選ばれて法人の役員に席を連ね、あげて微力をつくしてはいるものの何分にも各自それぞれ本業のかたわらである関係からまだまだ十分とはいえないものがある。

しかし本学の存続と発展のためにはなお一層の努力を傾注せねばならぬと考へてゐます。何卒全国の同窓生各位のさらざる友情とご支援ご協力を頂きたい。

終りに全国同窓生各位のご健康とご発展を心からお祈りいたします。



理事長 田岡嘉寿彦

法人にも生命権

—1万7,000同窓への報告と訴え—

憲法で一番大切な規定は基本的人権である。その根本をなすものは生命権である。判例も「人間の生命は地球よりも重い」といつておる。しからは、何故に人の生命は地球よりも重いほど尊いか。あるいは、人間は万物の靈長であるからである。あるいは、人間は神の分身であるからとも、あるいは、人皆仏性を持つておるからであるともいえよう。しかし、私は人間は我々の同胞であるからであると思つてゐる。法律的に言えば社会という協同体の構成員であるからではなからうか。

これは私の独断であるが、自然人に生命権があり、それが社会の構成員であるからであるならば、自然人と同じように社会構成の一単位としての意義と価値を有すと認められておる法人にも或る意味においての生命権が認められなければならないと言いたいのである。しかし、肉体を有しない法人の生命権とは法人が法人としての独立の存在を維持してゆく権利で、みだりに他人の行為によって消滅せしめられない権利である。昨年から今年にかけて起つた多くの大学の学園紛争で、卒業試験や入学試験の粉碎を叫んで学園の息の根を止めようとするような運動に対し、学校法人の代表者の一人としてこういうことを考へざるを得なかつた。

もし、法人に法人としての生命権があるならば、これを危殆ならしめる行為に対しては、それを防衛する権利がなければならぬ。これは条理上当然とするところであると思つてゐる。この問題について同窓生各位にも多大のご心配をおかけし、格別のご尽力を賜つたことに対し深甚の謝意を表するとともに一層のご支援をお願いする次第であります。

新しい理事と支部長

▷(1)広田実・宇野善四郎・内田真二▷(2)山上善彦・中島春雄・松原四郎▷(3)渡辺達好・世良鍊次・磯野 斉▷(4)中村 源・三木 薫・森元庸晃▷(5)岸本健蔵・清水忠文・長岡辰生▷(6)伊藤音七郎・川島正作・吉見敏▷(7)比企重・高橋久一・日南為雄▷(8)柴田秀一・長尾晃・中島政義▷(9)武川茂夫・山口久雄・須々木敏郎▷(10)榊井貞詮・萩原市郎・竹内美次▷(11)桑津昇・筒井英夫・重里実▷(12)玉岡浩・坂上謙之助・百野操▷(13)中村美智子・前田悦子・山崎和子▷(14)上野満里子・小松真佐江・柴田悦子▷(15)黒田 稔・大川 良・木下一子▷(16)陰下嘉典・百瀬昭治・酒井克己▷(17)太田一澄・相馬士朗・西尾良明▷(18)松本義和・貝塚茂・浜本泰▷(19)山中良夫・平田五郎・浅井一男▷(20)山村恭造・川野群平▷(21)神喜作・太田利正・奥山正美▷(22)森本真輔・大槻明司・谷口一郎▷(23)酒井弘光・西本集一・坂口良三▷(24)上野晃司・忠政茂・山上景士▷(25)村井十三夫・邑上亨・水納敏也▷(26)辰本博己・田丸寛二・坂井田雄賢▷(27)旭克之・森泉新一郎・坂元裕▷(28)平尾哲男・鶴谷利一・大久保儀臣▷(29)大門寿郎・小馬一起・柴田明彦▷(30)川上堅士・神田 博・大室和弘▷(31)杉浦雄二・寺岡利之・山本昭夫▷(32)村田哲夫・中沢広凱・湯原郁雄▷(33)稲福善男・奥田猛・丹波繁寿▷(34)岡崎竜雄・島口勝治・柏原義盛▷(35)大西健介・須藤満征・柏木 弘

学校側理事 藤原光治郎・梅田武文・浅沼玄恵
現支部長
▷東京支部 支部長 服部友一 秋弘
▷東海 " " 加藤正 邦隆
▷滋賀 " " 野田隆 文弥
▷京都 " " 木下村 仁一
▷丹有 " " 梶島隆 一弘
▷神戸 " " 長川 喜多
▷姫路 " " 永松 義多
▷和歌山 " " 大森 一護
▷岡山 " " 佐々木 義護
▷広島 " " 小田 保一郎
▷山口 " " 矢野 俊介
▷高松 " " 谷田 憲之
▷徳島 " " 横田 博之
▷高知 " " 荒牧 与四
▷九州 " " 石地 与四
▷石川 " " 内田 甫
▷福井 " " 重松 尚
▷富山 " " 水上 敏夫
▷三重 " " 水増 田 夫
▷西宮 " " 増 田 夫
(職域支部)
▷大阪市役所支部 支部長 村上 静 夫
▷和歌山相互銀行 " 斉 藤 照 雄

昭和44年度決算表

自 昭和43年10月1日 至 昭和44年9月30日

科 目		決算額	予算額	科 目		決算額	予算額
前期より繰越		2,146,047	2,146,047	特別基金勘定へ振替		2,089,716	3,000,000
会費収入		6,769,000	7,500,000	総 会 費		1,012,429	800,000
名簿収入		47,100	50,000	役 員 会 費		1,129,890	900,000
雑 収 入		917,103	900,000	支 部 費		416,990	500,000
合 計		9,879,250	10,596,047	事 務 費		2,102,217	1,750,000
				編 集 費		1,323,478	1,600,000
				学 対 費		453,000	900,000
				慶 弔 費		6,000	50,000
				予 備 費			1,096,047
				次 期 繰 越		1,345,530	
合 計		9,879,250	10,596,047	合 計		9,879,250	10,596,047

昭和45年度収支予算表

(自 昭和44年10月1日 至 昭和45年9月30日)

収 入 の 部		支 出 の 部	
科 目	予 算 額	科 目	予 算 額
会 費 収 入	7,000,000	総 会 費	1,100,000
名 簿 収 入	800,000	役 員 会 費	1,300,000
雑 収 入	950,000	支 部 費	500,000
前期より繰越	1,345,530	事 務 費	1,850,000
		編 集 費	3,600,000
		学 対 費	1,000,000
		慶 弔 費	20,000
		特 別 基 金	500,000
		次 期 繰 越	
		予 備 費	225,530
合 計	10,095,530	合 計	10,095,530

同窓会総会は、例年十一月の第三日曜日に開かれるというのが永い間の慣習であったが、昨年度(昭和四十三年十月〜四十四年九月)は学校並びに学生側の強い申し入れもあって、大樟祭の一日を同窓会総会の日と決め、十一月三日(日曜日)に開催した。そして、学校も学生も、同窓会も年一度のお祭りを盛大に、楽しい一日を過ぎて来年も……と期待しながら東に、西に別れていった。本年度も、夢よう一度と本部としては企画をし、同窓会の皆様も楽しみにしておられたことと思いたす。ところが、昨年九月に端を発した学園紛争は「学徒師弟が 幹負ひ

- 意見百出したが、結局、総会の無期延期の決議をしなければならぬ結果
- 常任理事名簿と分担表
- | | |
|---------|--|
| 学 校 側 | 藤原光治郎 |
| 理 事 長 | 渡辺 達好 (3) |
| 常 任 理 事 | 広田 実 (1) 山上 善彦 (2)
世良 鍊次 (3) 磯野 斉 (3)
岸本 健蔵 (5) 萩原 市郎 (10) |
| 総務担当部長 | 玉岡 浩 (12) |
| " 副部長 | 水納 敏也 (25)
前田 悦子 (13) 平尾 哲男 (28) |
| 会計担当部長 | 陰下 嘉典 (16) |
| " 副部長 | 太田 利正 (21) |
| 編集担当部長 | 松本 義和 (18) |
| " 副部長 | 中村美智子 (13)
山中 良夫 (19) 森本 真輔 (22)
大門 寿郎 (29) 稲福 善男 (33) |
| 事務局 長 | 比企 重 (7) |
| 監 事 | 三木 薫 (4) 小松真佐江 (14)
酒井 弘光 (23) |

年一度の同窓会のお祭り同窓会総会が学園紛争のあふりをくらってつい中止と決定しました、まことに残念なことです。この経過のご報告と、昭和四十三年十一月三日(日)大樟祭(大学祭)と時を同じくして開催されました総会において同窓会々々の規則改正がおこなわれ、理事会が議決機関として重要事項を決議することになりましたことは、「瀬江五号」にてお知らせいたしましたので既にご承知のことと思いますが、この方針に従い、おこなわれました理事会の決議事項を順を追ってご報告いたします。

われわれ同窓会としては、一日も早い正常化を祈念するのみである。

同窓会総会を無期延期
新役員のもとで決意新たに



果となってしまうた、本部としては心から同窓生の皆様にお詫びするとともに、まことに残念である。一日も早く、「澄んだ心に 鐘なりわたる 晴れ空だ ひらく真理の扉につどふ 面はかがやく 求理の学園 大阪 大阪経済大学」にかえってほしいものである。そして、あの楽しい一日をお互に味わい、お互の健康をたたえあい、師弟の融和を深め、意見を交換しあいつつ同窓生としての自覚を高めて援けあいながら、この激しい社会情勢を乗り切る糧にしたと念願する次第である。大学の正常化への道はなおけわしいものが残っているように思う。しかし、その解決への苦しい努力こそが、明日への楽しい希望につながるのである。

昭和45年度母校入学試験の協力について

このたび大学から同窓会に対し左記「昭和四十五年度入学試験への協力」方の懇請がありましたので、私共は大学側の主旨を了として入試を無事完遂出来るよう全面的に協力をしたいと存じます。ご貴殿におかれましては、公私共にご多用のところ、ご無理なお願いで恐縮に存じますが事情ご賢察の上、宜しくご協力のほどお願いいたします。また、お知合いの同窓生各位へも勧誘下さいますようお願いいたします。

なお、入学試験当日ご協力下さる各位に對しましては改めて大学側から、依頼状をお送りいたすことになっております。先づは右大学側要請文をそえてご協力方お願い申し上げます。
昭和四十五年一月三十日

大阪経済大学同窓会
理事長 渡辺達好
同窓生各位

拝啓 春寒なおきびしい昨今でございますが、いよいよご健勝で活躍のこととおよろこび申し上げます。

昨年九月以来の大学の紛争につきましては、一方ならぬご心配をおかけいたしました。去る一月六日の封鎖解除以来講義も平静に行なわれ、目下学年末試験も支障なく実施しております。しかしながら、なお、一部学生による混乱も案じられる状況であります。このようななかで、来る二月十六・十七の両日入学試験を実施するはこびになりました。

われわれといたしましては、万難を排してこの入試の完遂をはかる所存でございますが、何分かねての試験となり、多くの人手を要し、本学校職員だけでは到底これを確保することが出来ず困惑いたしております。

つきましては、はなはだ勝手なお願いでまことに恐縮でございますが、監督その他について、卒業生のみなさまのご援助をお願いいたしますと存じます。

時節から、なにかとご多忙のことと存じますが、事情ご賢察の上、何分のご協力をたまりたく、よろしくお願いを申し上げます。

右お願いまで申し述べました。
敬具
昭和四十五年一月二十九日

大阪経済大学 学長事務取扱 大北文次郎
大阪経済大学 理事長 田岡嘉寿彦
大阪経済大学同窓会
理事長 渡辺達好殿

予算決算を承認可決

◇昭和四十四年十月二十日(月)、午後六時
◇東阪急ホテル

◇議案
第一号議案
昭和四十四年度決算及び昭和四十五年度予算
第二号議案
本年度総会と学内情勢
第三号議案
役員(理事)改選
出席者 六三名

定刻より若干遅れて比企事務局長の開会の辞に引き続き、渡辺理事長の挨拶、早速議案審議にはいる。
第一号議案
○昭和四十四年度決算について岸本会計部長より報告。
○小松監事より監査報告。
○昭和四十五年度予算案について玉岡総務部長より各項目につき説明。

常任理事を増員

◇昭和四十四年十二月六日(土)、午後六時
◇ニュー・パレス(新阪急ビル)

◇議案
第一号議案
常任理事選出
第二号議案
その他
出席者 六二名

比企事務局長の開会挨拶につづいて議長選出方法について提案。「司會一任」との声多数、拍手にて満場一致。そこで、渡辺前理事長を議長に指名。ただちに常任理事選出方法について議長より各理事に意見を求めたところ、中村理事(13)から「卒業生も相当数増加したので常任理事数現行一五名を、同窓会々則第六条に規定されている二〇名まで増員しては、……」と提案。異議なく満場一致で可決。

次に、議長より新常任理事選考委員として、山上(2)、武川(9)、前田(13)、陰下(16)、大槻(22)、稲福(33)各理事

ことを了解して議事を終了。
第二号議案
次に、前回の理事会で常任理事会一任となった欠員監事(宇野監事の辞退)については、渡辺理事長より三木薫理事(4)を改めて指名。三木理事これを受諾して監事就任の挨拶あり、全員拍手で承認。

以上で二議案の審議を終了。別室にて懇談会に入り、午後九時散会。

の六名が指名され別室にて慎重審議の結果、選考委員を代表して山上理事より新常任理事二〇名を発表、全員拍手で承認。ひきつづき新常任理事で新理事長を互選の結果、渡辺常任理事を選出。

新しく就任された渡辺理事長より就任挨拶ののち、理事長より新監事(三名)として
宇野(1)、小松(14)、酒井(23)理事

を指名されたが宇野理事より辞退の申し出があったので、この一名については常任理事会に一任するということとなり、拍手のうちに議事終了。懇談会に入り二〇時四〇分散会。

なお、二カ年間で苦勞をお願いす

ることになりました新しい理事と、当日選出された常任理事およびその分担は別表のとおりです。
母校入学試験に協力
◇昭和四十五年一月三十日(金)、午後六時三十分
◇ニュー・パレス(新阪急ビル)
◇議案
第一号議案
昭和四十五年母校入学試験協力について
第二号議案
その他
出席者 五九名
◇出席者 五九名
第一号議案

同窓会支部だより

同窓生の皆様、支部にご参加下さい

各地で盛大に支部総会開催

学園封鎖という非常事態の中で、本部における唯一の年中行事である同窓会総会は遺憾ながら中止のやむなきにいたったが、それにひきかえ、支部活動は年々活潑になり、今年度も各地で盛大な支部総会が開かれた。特に今年度は、同窓生としての母校愛から、各地で先生や本部役員が質問攻めにあうという光景もしばしばで、多大の関心が寄せられ、出席率も例年にくよかったようである。

曼ドリンクラブ福井演奏会に寄せて

万国博の年一九七〇年、またきびしくそしてはげしくゆれ動くであろう一九七〇年でもあります。どうやら今年には学園紛争も昨年に

比べ静かに治まったかに思います、どうかともどもに静かに平和な年でありませうお互いが祈りたいものであります。高度成長街道をひた走

り走る日本丸の一翼を、各分野で担って活躍される皆様を想いますとき、私は心からの敬意と最高の誇りを感じるものであります。来る七月二十日の吉日を卜し、福井文化会館において当本学マンドリンクラブを招き、学生諸君一行によるマンドリン演奏会を開催する運びとなりました。

思えば昭和四十三年七月当地開催には、いろいろのご支援をいただきましたが、今回も一層の尊厳な中にもはげやかに幕が上がるものと信じます。

ともすると、文化度の低い当地方にも、この演奏会が文化発展のきっかけとなれば甚だ幸であると思えます。どうかこの演奏会に錦上添花を添えて下さいますよう皆様のご来福を心からお待ち申し上げます。

北陸地方の夜明けである国鉄北陸線の復線電化も完成し、関西、中京方面が一段と近くなり密接な結びつ

きとなりました。
また北陸高速自動車道路も各個所において工事が着工されています。
この高速自動車道路完成のあかつきには、また北陸の夜明けとなりま

す。
当地方は時代の最先端に行く原子力発電所群、三方五湖、越前海岸、東尋坊、永平寺等名所旧跡も多く、また、美味と素材さで知られる越前かに、わかめ、そしてうにと盛沢山あります。

どうぞ日頃の繁忙をお忘れになり、しばし一日たりともいこの場をお求め賜わらば何より結構かと存じます。
この度の演奏会につきましては色々何かとお手数をお借りすることと思いますが、その節は何卒ご寛容いただきませう紙面を拝借して特別にお願い申し上げます。

末尾ではありますが、ささやかな福井支部の状況をご報告申し上げますとともに、会員皆様様の愈々ご発展とご多幸の程を心からお祈りいたします。

大阪経済大学同窓会福井県支部のあゆみ

昭和四〇（一九六五）・七・一八、安久楼（武生）
同窓会福井県支部結成準備会発足

発起人内田、高嶋、高島、吉田、鈴木、池田の各氏、藤原、土生両先生を迎え、九名が顔合せ、福井県在住者の名簿作成など行なう。
昭四一（一九六六）・一〇・九あみや（敦賀）

大阪経済大学同窓会福井県支部、結成総会、支部規約の承認、役員選出、その他、発足時の会、藤原、土生、中村九の諸先生を迎え総会参加者は二名の盛況であった。

支部長に内田甫氏、支部理事に高嶋、高島、吉田、吉村勝、池田の五氏を選ぶ。
一〇・二八、大阪経済大学同窓会常任理事会に於て福井県支部結成の承認をうける。

一一・二〇、大阪経済大学同窓会総会に支部長内田氏出席、福井県支部結成状況を報告す。
昭四二（一九六七）・七・一五福井県民会館（福井）

第二回支部総会土生、中村九、内海の諸先生、及び同窓会事務局より二名の方々を迎え在生を含めて三十五名が集まり、融和、親睦の意気大いにあがる。尚夕方六・三〇分からは

マンドリン演奏会が開かれ、大阪経大マンドリンクラブ福井演奏会は同窓会支部の最初の事業として、支部会員の絶大な協力のもとに約八〇〇名の入場者で満場をうめ、学生らしい演奏ぶりは聴衆を魅了し非常な好評を博した。
一一・二三、大阪経済大学同窓会総会に吉田氏出席、マンドリンクラブ演奏会など活動状況を報告する。
昭四三（一九六八）・一一・二三あみや（敦賀）

第三回支部総会、参加者二三名美浜原子力発電所の見学もおこな非常に有意義な総会であった。
昭四五（一九七〇）・四・一九、虹岳島荘（若狭）第四回支部総会七・二〇、大阪経大マンドリンクラブ第二回福井演奏会於福井市文化会館

姫路支部

人間は本来的に主観的であると同時に客観的たるものである。彼が置かれてある社会の構造如何に依って

彼の主観と客観の組み合わせが異なってくるということに注意しなければならぬ。矛盾の社会を背景とする人間の世界観即ち主観と客観は決して併行的ではなくて『客観に対する主観の優越』ということが考えられるのである。これが矛盾社会を背景とする人間の世界観の特色である。というのが一般論的な説明である。

つまり世の中が矛盾して乱れて来るとその下に住む人間は少なくとも自覚した人間はその乱れに対して先づ『これではいけない何とかせねばならぬ』と考える、この考え方がそれが人間の主観であって、矛盾社会の乱れという客観に優越して全面的に現われてくるのではなからうか。主観と客観とが併行的でなく客観を打ち破って主観が優越せんとするのである。かかる矛盾社会の構造下に住む人間の世界観は現状打破の意識により高められ、またそれが人間のもつ本来の意識ではなからうか。一九七〇年代はまさにかかる矛盾社会に技術革新大化、国際化、システム化、情報化、自由化の激流が容赦なく怒濤の如く押し寄せることである。ところで姫路支部が誕生したのが昭和二十二年一月一日であるから今年でもう二十年余りになった。自分が支部長就任満二十二年にあたる昭和四三年八月三〇日に総会、懇親会を開き、若い世代の人に支部運営のマンネリ化旧態化停滞化を打破する意味でバトンタッチすべく提案した

が議論百出、結局もう暫らく支部長をやめることに満場一致決定しその代り暫定的に役員を若からせ支部長を補佐し運営することに決定した。その陣容は次の通りである。
支部長 永川 仁一（六回）
副支部長 棟内 明（五回）

岡山支部

会計幹事 福永 好文（二九回）
幹事 長谷川 孝（二二回）
米田 泰造（二二回）
その後新しい役員に依り、支部の人間関係を如何にもって行き、いかに円滑有意義に運営して行くか懇談を重ねていたが、例の学園紛争経大執行部の交替、学長の退陣等にかつて加えて、日々の雑用に取られ残念乍らその間一年半半時間の空転に終ってしまった。この間において今年の姫路における出張試験に対する協力は想像以上のものがあり、これこそ母校愛の発露として特記すべきことであろう。今年の夏には総会懇談会を卒業生、在学生一体となって開催することを進めているのでその席上ではいろいろと支部運営に積極的、建設的意見を出してもらえものといふから期待している。（永川）

当高松支部も相当早く設立されましたが、ここ数年間支部総会を開催致しておりませんでしたので昭和四四年八月三〇日（土曜日）午後六時より市内百間町二蝶別館にて本堂に久し振りに開催致しました。

当日母校よりは浅沼先生を始め同窓会本部の比企、玉岡常任理事、細羽庶務係長の皆様が出席下さいました。尚同窓生の出席は二〇数名にて諸先生方を囲み最近の母校の状況等をお伺いしながら我々戦争中に卒業した者、或いは戦後に卒業した者も和気あいいいの中に懐旧談に花を咲かせ、高松の夏の宵の一刻を過ぎし午後八時過ぎに散会致しました。次に当支部の年中行事と致しましては、在校生と我々OBとの共催のもとに六年前から毎年七月下旬に

母校より軽音楽部を招き、高松市民会館におきまして軽音楽会の夕を催し母校のPRに努めて来ております。昨年もライトミュージック・フェスティバルと銘打って開催致しましたが毎年必ず田岡理事長がご来高下されご挨拶をして頂いております。第一回目はグリークラブでしたが、果して成功するかどうか危ぶ

二月一七日経大受験場の福岡商工会議所には、六百数十名の受験者があふれ、さしもの大講堂も、これを収容しきれずいくつかの小室まで利用されている。受験生諸君は、実に真剣でせき一つする者がいない。二、三〇名の受験者を集めるのに苦労した一〇年前を思えば、まことに隔世の感があると荒牧支部長感無量の面持ちであった。

無事試験も終り、終始熱心に警戒の勞をとって頂いたお礼を述べため、鈴木先生同道、県警及び市警を訪問した。

支部総会までの寸暇を利用して、市内見物を企て、鈴木先生といつ時お別れすることにしました。昨年も所用で長崎まで行った帰り途、博多駅から飛行場までバスの窓から眺めただけで、二〇年以上も市内見物の機会がなかったのは、是非実現したかった。

早速、博多大橋、西大橋、川端町の銀行街を経て、博多駅に向う商店街、デパート街にみぎる活気は、やはり九州の重要都市としての貫録であらう。気がつくとい

九州支部総会に参加して

常任理事 磯野 斉

支部長改選も、本人の固辞もものかわ、出席者全員

の熱意に押されたかたちで満場一致、荒牧氏再選重任となる。博多自慢の水だきに舌鼓を打ちながら、会社のこと、自営のこと、博多の自慢話等々和気あいいいたる雰囲気の中で、時のたつのを忘れ欲談尽きることなし。

一〇時も過ぎた頃、同窓会の発展と母校の進展を祈りつつ、去り難い席も、お開きとなった。九州支部の皆さん、次の総会を楽しみに頑張らしましょう。 さようなら。

部総会の模様と行事の一部をご報告させていただきます。最後に同窓会々々皆様方のご健康とご活躍を祈念しながら筆を置かせて頂きます。（矢野）

九州支部

九州支部の総会など開きましたので、そのご報告をいたしましょう。

九州支部は毎年経大の出張入試が福岡市でも行なわれるのを機会に、それにタイミングをあわせて、総会を開いております。ことしは、二月一六日と一七日に、入試が行なわれしたので、最終日の一七日に、九州支部総会を福岡市で開催しました。入試については、本学の大阪と同じように、学生の妨害があるのではなからうかということで、少し緊張があったようですが、経大からは、鈴木正里教授をはじめ、職員四名の方が、試験要員として、来福されました。同窓生の私たちも、試験当日は二日間、職場の同人を動員して、試験のお手伝いをしました

が、いちおう試験が無事終わったということは、ひとつの方向を示すものと、いうことができるであります。よう。試験が終わった二日目の二月一七日に、福岡市のクラブ望洋荘で支部総会を開きました。同窓会本部からは、磯野常任理事のご出席を得ました。来福の鈴木プロフェッサーや職員の方も交えて、経大の学生問題や、経大の現状やこんごのあり方などについて、報告や討論が行なわれました。とくに、出張入試が福岡市で行なわれましたのは、一〇年前でしたが、そのときは受験の応募者は、わずかに二〇名足らずでした。そのときは、藤原教授を始め、今回来福の鈴木教授と小生荒牧と三

人で出張入試を行なったものでしたが、年とともに九州地区の受験生がふえ、ことは、実に五百余名を数えるに至りました。これはいづれにしても、すくなくとも経大が前向きの方角を示すパロメーターであろうと思うのですが、いかがでしょうか。しかしなんであれ、世界や国や社会やひいては同窓会を含めて、経大がよくならないことには、敬意を表さなければならぬであります。（荒牧）

岡山支部

昭和四四年度大阪経済大学同窓会岡山支部総会報告。昭和四四年九月七日（月曜日）午前中故黒正蔵先生の二〇年祭を滞りなく終了したる後墓参りをすませ同じ会場である桃花源で大阪経済大学の同窓会岡山支部総会を開きました。

二〇年祭に参列して下さいました方々も全員参加して下さい、岡山支部長司会者となり、先づご遺族の方より謝辞を述べ頂き、次いで藤田学長より大学の近況並びに黒正先生の追憶談をして頂きました。

中でも大学の近況については、支部同窓生は非常に興味を持っておりので大きな収穫でした。また田岡理事長からは大学の施設面と黒正先生の想い出話がありました。これまた同窓生に大いに興味をおぼえるものでした。

他に来賓の方々からも黒正先生の追憶談が出て、今更ながら先生の偉大さを再認識すると同時に同窓生の諸兄も今後の支部の団結と発展を心に誓うことに確信を得たものと信じます。最後に今春卒業の参列者塩尻、中山、小野、渡辺の諸君をご紹

介して旧交を暖める歓談会に移り、午後二時過ぎ自然散会しました。以上簡単な支部総会報告ですが、このたびは故黒正先生の二〇〇年祭を午前中挙行するに当り本場に各方面の物心両面のご協力ご援助を心から厚くお礼申し上げます。

特に大学当局、同窓会本部、各支部の方々ご遠路のところ本場に有難うございました。この感激を岡山支部の発展にもって行くことこそ皆様へのお礼への道とわきまえております。

また、当日お世話下さいました同窓会支部の諸兄、ご出席頂きました支部会員の皆様本場にご苦勞様でした。最後にご丁寧なご祝電を頂きました左記の方々に厚くお礼申し上げます。

大阪経済大学 同窓会殿
大阪経済大学 大阪市役所支部殿
同窓会
丹有支部殿
亀山孝一殿
寺尾宏二先生

山田支部

久し振りに雨もやんだ。海の色は青い、晩春から初夏にかけての海は美しい、何か忘れていたもの思い出したようだ。

九州の石炭を京阪神へ、朝陽をうけ、夕陽を背に、ぎゅりと海峽をうづめて光った舟、真帆片帆、白く輝く往時の情景は今はない。いま海峡の狭い海には、ひねもすのたりのたりの悠長さはない。行き交う鋼船、架橋の槌音、新幹線のトンネル工事も近い、発展のテンポは早く、より効率的であるべくより経済的合理性のもとに、七〇年代が我々を駆

りつつある柏原にいたります。われわれの支部は、この地域一帯を古く丹波・有馬と称していましたが、"丹有"と名付けたのです。当地方の五つの高校を卒業して大阪経大に学んだ者と当地在住者により、卒業生会員と在学生会員とが一体となって組織しているユニークな支部であります。

本年度は卒業生会員は一八七名で、在学生会員は一四五名になりました。この数は各支部のなかで地域的な密度では最大だろうと思えます。

四四年はついに支部総会を持つ機会に恵まれなかった。取りあげて書き報告すべき活動状況もなく、不勉強をかこつ。

「伝統こそ一国民の精神的継性は宿る」と誰かがいった。国民と学校を置きかえて見る冒険もしてみたい。校風としての若さ、産業の担い手として知識への情熱、昔を偲んで、互に語る。七〇年代とわが校風、こんな繋りは無理だろうか、なんとか繋いで見たいもの。今年支部総会を持ちたいものだ。本州の西端にして、細長い、地形は悪条件だが山口支部員一同お互の声をききに激励され、それぞれの職場で大阪経大の誇のもとに、今日も勢一杯活動しております。(小田)

東海支部

「在学中より、卒業すると懐しくなる学校ですね」

どの同窓生からも聞かれる言葉だが、東海支部ではとくにこうした対話がよくかわされます。大阪を離れた土地という感情と「なつメロ」に耳を傾ける私たちの年配が、こんなムードをかき立てるせいかもしれせん。

とにかく、こんな気持ちが昨年末の総会で爆発しました。学生の騒ぎが頂点に達し、敬愛する藤田学長が退陣される異状事態だったことも確かです。学校からご出席頂いた浜本先生達が被告席に立たされたかっとうで恐縮しましたが、この時の対話にもいかに母校を心配しているかという熱情が、会場一杯にみなぎっていたようです。

あれから半年、あの時急先鋒とな

ころが、昨年度は大学紛争のため本部総会中止され、したがって、支部総会も延期しておりましたが、三月二五日篠山で大学より浜本先生、本部より広田常任理事、比企事務局長の両氏をお迎えして、OB会員四名、現役会員二名が参加し建学以来の「融和」の気持により、先輩も後輩もいっしょになって「ぼたん鍋」を囲み、有意義な一日を過ごしました。

また当日は、柏原高校卒業生の現役の会(柏原会一五五名)が、柏原高校教員で先輩の平野芳治・佐藤裕之両先生の熱心で適切な指導と、全員一丸となったひたむきな努力により、水上郡公会堂で大阪経大軽音楽部員数十名を招きジャズコンサートを開催しました。前記の浜本先生、広田氏、比企氏や小生が総会場からごあいさつに駆けつけました。広い会場をうずめた二〇〇名の聴衆はしるうとも思われない演奏とマナーの良さ、会場設営や進行にあたった学生たちの立派な態度に称賛の拍手を送りつけておりました。

われわれは新入生会員を迎え、「和と協力」を標語に、大阪経大に学んだことを誇りとして、大学と同窓会発展のために母校愛に燃えみんな肩を組み進んで行きたいと願っております。

本年度支部役員
支部長 梶村文弥 八回
副支部長 倉垣真雄 一一回
芝 浩 二二回

地区委員
三田地区 松本正彦 三〇回
多紀地区 渡瀬照正 三五回
新家盛次 二四回
稲山建男 三二回
水上地区 平野芳治 五回
佐藤裕之 三〇回

大阪市役所支部

恒例により一月二〇日午後六時より「ピクトリヤ」(東淀川区十三)において新年宴会をかねて支部総会を開催した。旧交をあためたため歓談のときをすごした。同窓会より渡辺理事長、比企事務局長が参会された。

◎大学入試の試験官補助派遣
二月一六日、一七日両日行なわれ大学入試にあたり同窓会よりの要請もあり当支部より支部員一五名(同

窓会役員は別途参加)が試験官補助として派遣協力した。

大阪から福知山線に乗るか、国道一七六号線を北に向って車を走らせると、宝塚を過ぎて間もなく武庫川溪谷に出ます。山あいは、いくえにも重なり、老松を背負った奇岩がつき、川面にはえる若葉のむせるような香りがただよい、春雨でよりあざやかさを増し、目にしみるほどの緑を車窓から眺めていると、一幅の山水画を思わせる風景で、しばらく時のたつのも忘れさせてくれるほどです。

さらに二〇分三〇分も行くと、次第に田園地帯の三田が広がり、最近では工業団地、住宅団地として脚光をあびるとともに、南側に隣接して中国縦貫自動車道が完成すると、ますます地の利を得て経済的な躍進が期待されています。

おいしい空気を胸一杯にすい、手入れのゆきとどいた山林や整備された田畑の間に白壁の土蔵のある農家など、田舎ならではのよさを満喫しているうちに、丹波杜氏、デカンション節、立杭焼その他有名な青山六万石の城下町篠山を経て、いまや但丹地方の文化経済の中心的存在にな

先生 原稿をおよせ下さい
先輩諸氏

「澗江」はわれわれ同窓生の機関誌です。みなさんのご協力を得て今後ますます立派なものにしていきたいと存じます。つきましては、みなさま方の原稿を心からのぞんでいます。随想ももちろん結構ですし、短歌、俳句、川柳、なんでも結構です。

遠慮なさらずどしどし編集部までおよせ下さい。

丹有支部

窓会役員は別途参加)が試験官補助として派遣協力した。

大阪から福知山線に乗るか、国道一七六号線を北に向って車を走らせると、宝塚を過ぎて間もなく武庫川溪谷に出ます。山あいは、いくえにも重なり、老松を背負った奇岩がつき、川面にはえる若葉のむせるような香りがただよい、春雨でよりあざやかさを増し、目にしみるほどの緑を車窓から眺めていると、一幅の山水画を思わせる風景で、しばらく時のたつのも忘れさせてくれるほどです。

さらに二〇分三〇分も行くと、次第に田園地帯の三田が広がり、最近では工業団地、住宅団地として脚光をあびるとともに、南側に隣接して中国縦貫自動車道が完成すると、ますます地の利を得て経済的な躍進が期待されています。

おいしい空気を胸一杯にすい、手入れのゆきとどいた山林や整備された田畑の間に白壁の土蔵のある農家など、田舎ならではのよさを満喫しているうちに、丹波杜氏、デカンション節、立杭焼その他有名な青山六万石の城下町篠山を経て、いまや但丹地方の文化経済の中心的存在にな

同窓会支部役員

東京支部	支部長 服部 友一
東海	加藤 正秋
滋賀	野田 邦弘
京都	木下 隆徳
丹有	梶村 文弥
神戸	長島 隆
姫路	永川 仁一
和歌山	松本 旬弘
岡山	大森 喜多志
広島	佐々木 一義
山口	小田 護
高松	矢野 保郎
徳島	谷 俊一郎
高知	横田 憲介
九州	荒牧 博之
石川	石地与四太郎
福井	内田 甫
富山	重松 尚
三重	水上 敏夫
西宮	増田 憲治
大阪市役所支部	支部長 村上 静夫
和歌山相互BK支部	齋藤 照雄



未来の成長株 経大31会

昭和31年経大卒業生の50名の「同期の桜」の会「経大31会」が生

れて早や3年、諸兄の協力を得て、年を加える毎に盛大になっております。全国に勇飛し、活躍中の諸兄全員出席の総会の実現を目標に、有意義なプランを実行したいものと、世話役幹事一同は張切っております。

ところが会費の収納がうまくゆかず、活動資金が不足がちで悩んでおります。

年会費千円也の納金のこと、なんとか諸兄の応援をたのみます。

昭和31年経大を卒業した諸兄/同期諸兄/会費同封の上、近況をお知らせ下さい……。

送先 大阪市北区中之島5-1-58
浪速通信機内・経大31会・仮事務局
常任幹事・大槻明司 谷口一郎

「スナップせつめい」未来の成長株の31会のメンバーが集い、時を忘れて語り合った総会のスナップ。諸兄もぜひご参加下さい!

大北文次郎先生急逝される

(学長・常務理事・評議員)

七月十四日八時二十分自宅で(豊中市中核塚二丁目二五―五)心筋梗塞症により永眠されました。

数日前まで元気で学校へ来られていただけに、この突然の訃報には、教職員はいうに及ばず、同窓生、在学生一同大きな衝撃と深い悲しみを受けてました。大学が重大な局面に際しているこのときに、師の昇天されたことは



悲痛の極みであります。

翌七月十五日午後三時から自宅近くの瑞輪寺でしめやかに密葬が行なわれましたが、師の急逝にもかかわらず、学の内外から三百名を越す参列者が馳せ参じました。大学としては、改めて学園葬を八月八日に本学体育館において荘厳に挙げる予定になっていました。生前、師は本大学の前身である昭和高等商業学校創設以来、三十有余年を教壇に過されその厳しく、水準の高い学問的薫陶によって幾多の優秀な人材が社会に送り出されました。師は、不断学問への情熱を絶やされたこととはありませんでしたが、本学の新制大学への昇格時頃より、ご自身の研究を犠牲にされて本学の経営及び教学の充実のため、文字通り寝食を忘れ、挺身されたものでした。その心労のため、長く病をえられたことも周知の通りです。

臨終間きわまで、付添いの方たちに師が語

られたことも、ただただ学園の現況と前途についてだけであったと聞いては、まったく頭の下る思いです。
同窓生諸君、師の学園に残された努力、業績に報いるため、われわれ一同、さらに団結を固め、ひたすら学園発展のために邁進すべきことを、ここに誓い合おうではありませんか。

(なお、お宅には三人のお嬢様が、それぞれ嫁がれ、あとにはご病身の奥様が残っております。)

略 歴

- 一、明治三十三年一月五日 京都に生れる
- 一、大正十二年 東京商科大学卒業
- 一、大正十五年 昭和三年 欧米に留学
- 一、昭和十一年 昭和高等商業学校教授
- 一、昭和十九年 学監
- 一、昭和二十年 昭和学園理事
- 一、昭和二十一年 大阪経済専門学校校長事務取扱
- 一、昭和二十五年 同校校長
- 一、昭和二十八年 大阪経済大学長事務取扱
- 一、昭和四十四年 大阪経済大学学長事務取扱
- 一、昭和四十五年 学長

気をつかい、やんちゃ坊主の学生達をよく導き、苦難のうちに立派に大学昇格という偉業をなしとげた、学園にとっては大恩人だったといえる。

大北先生を偲ぶ

(編集部長 松本記)

人間的にも心の広い、慈愛にみちた人だった。私達が先生の教えを受けたのは、終戦直後の混乱期の中で、しかも一方には大学昇格という大事業をひかえ

ての多難な一時期だったが、ちよとどの頃は、占領政策に対する抵抗もあって、学生運動は激しく、何度かの全学ストも行った。しかしその際にも軽拳

が、私達には先生の誠意と、学校を思う真心が、必ずや正常化への道を導きだすものだど期待もし、念願していた。
この激動期に自らの身をなげうって挺進された姿は、子を思う母親の姿以外の何ものでもなかったと思う。

この先生の霊をなぐさめるただ一つの道は、学園も教職員も同窓生も一丸となって学園の正常化をはかり、学園の発展をはかることである。傍観はもう許されない、皆なでこの解決をはかるための勇気を持ちたい。

戦いすんで……



一昨年の東大斗争を頂点に、全国各大学で火の手をあげた学園紛争は、ついに本学にも波及、読売奨学金問題に端を発して泥沼に落ち込んだ。入試時期をひかえ、ついにこの一月機動隊を導入、封鎖解除に踏み切ったが、本館の内部は荒れ放題、なんとも無残な姿がそこにあった。“戦いすんで、日がくれて……” 悲しむべき荒涼たる姿である。

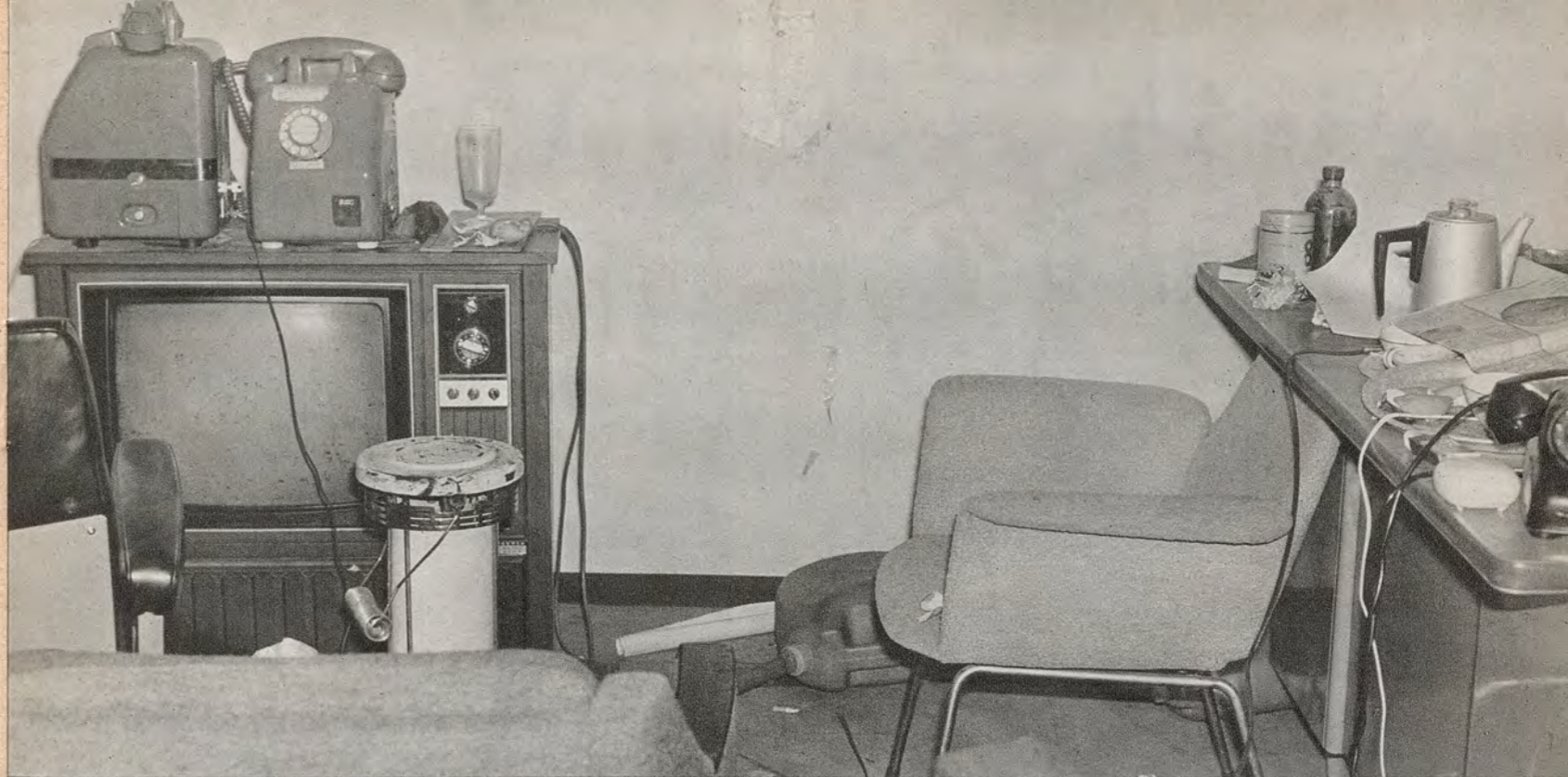
無残なりわが学舎

誰が、どうして、こゝまで……荒れ放題の学園を見て、正直に怒が全身に走った。いまさら、こゝで紛争の是非について論議をしようとは思はない。しかし、どんな理由があろうとも、こんな破壊が、大学という良識の府で許されてもよいものだろうか。



〔写真説明〕

- ①無残に窓ガラスの破れた本館
- ②荒れ放題の研究室
- ③階段も金具をはいで、ご覧の通り
- ④屋上には戦闘準備、でも不発に終わったのが何より
- ⑤資本論に少女雑誌、なんともちぐはぐ
- ⑥あと片づけぐらいしたらどうなんだ
- ⑦田岡理事長何を思う
- ⑧黒正先生も彼らにかゝったらかたなし
- ⑨あと片づけは教職員の手で
- ⑩ビラはぎも重労働、いっぺん彼らにやらしたら



同窓生の最大の関心事といえば、何といっても読売奨学金問題に端を発し、この一月警察機動隊導入による封鎖解除にいたるまでの学園紛争にある。

このあふりをくらって一度の同窓会総会は流れてしまったし、各支部総会に出席しても話は期せずしてこの問題に集中した。

かなり激しい非難の声もあったし、同窓会として取るべき態度をとれというきついお叱りの言葉も丁だった。

しかし、事態は常に流動的、同窓会としても自ずと慎重にな

学園紛争日記

んはくすぶりつつけている。

そこでここに報告もかねて学園紛争のあらましを主観をさけて客観的に日記風にまとめ掲載することにする。

安保闘封鎖を解除。

九月二六日(金)

第四回大衆団交(教授会)。

教授会声明撤回要求。

前期試験延期、九月二九日から授業再開を発表。

九月三〇日(火)

読売問題委員会を教授会内に設置

九月一六日(火)
読売奨学生闘争委員会読売問題のビラ配布。

九月一七日(水)

未明闘大全共闘を含む本学安保闘、角材、鉄パイプ、ヘルメットで武装し、A—一三号教室革マルBOXを襲撃。
午後安保闘全学総決起集会「読売奨学制度を告発」。

九月一八日(木)

学長告示。
第一回大衆団交(学長)。読売奨学生問題のみ、自主規制、寮、プロゼミ問題は出す。
革マルA館封鎖(未明)。

九月二二日(月)
第三回大衆団交(学長)。
学長読売奨学監事を辞任し、制度改善のための善後策を約束。学長倒れる。

九月二四日(水)

未明安保闘本館封鎖。
二四日から始まる前期試験を二四・五の両日中止を発表。
教授会声明「学生諸君に訴える」を発表。

九月二五日(木)

全学集会。
封鎖可否投票の結果(封鎖続行九一七、封鎖反対一、五四七)。



九月二九日(月)

一〇月四日(土)

読売問題委員、教職組執行委員、読売奨学生と面談。

一〇月六日(月)

第六回大衆団交。

学長辞意表明。

安保闘団交席上での公開教授会開催を要求するが応ぜず決裂。

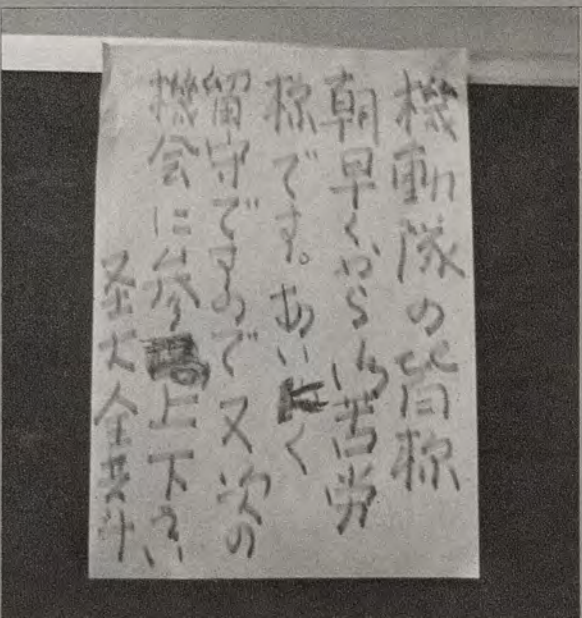
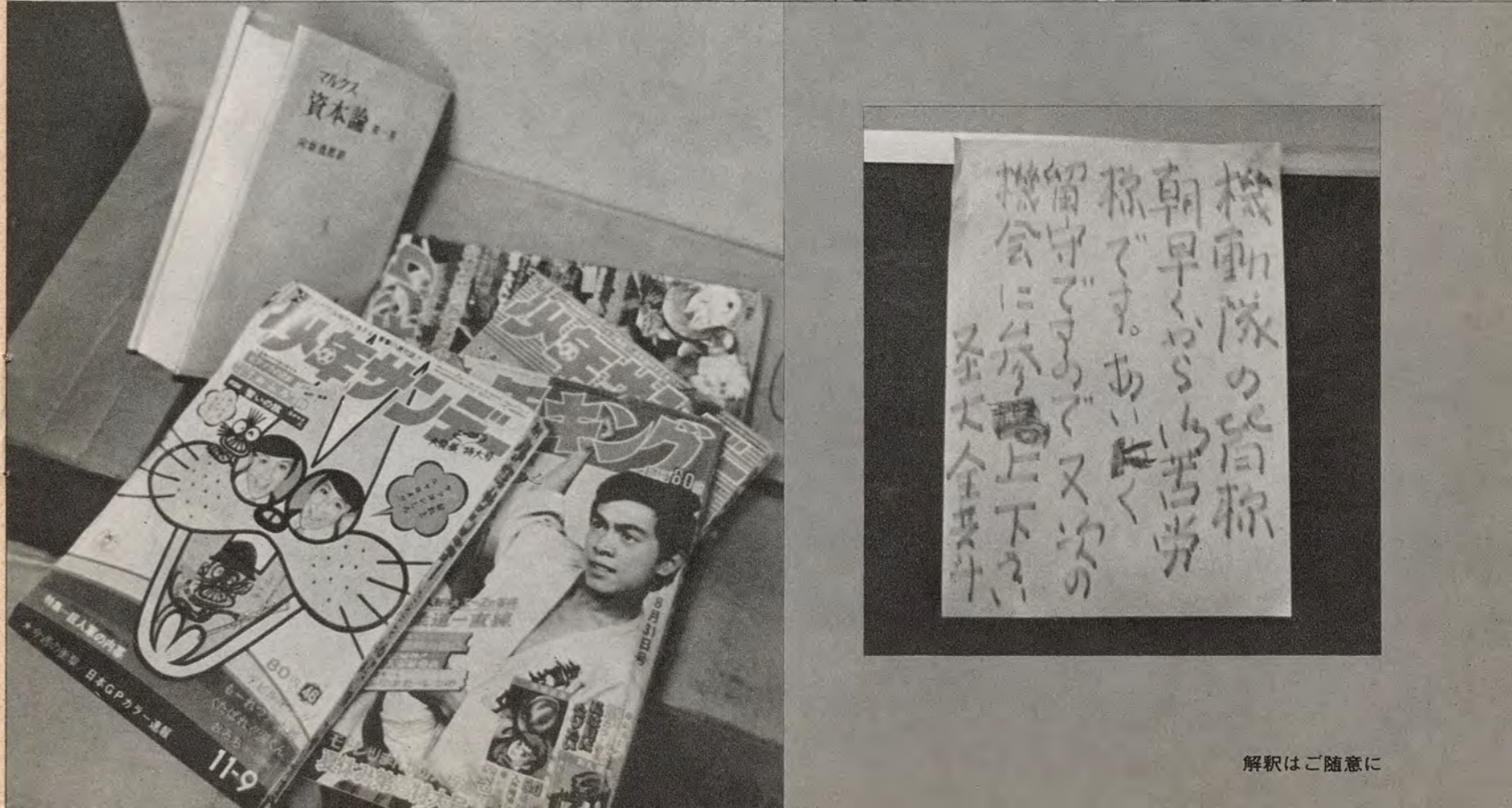
教授会で執行部辞意表明。

深夜安保闘角材、鉄パイプ、ヘルメットで武装し、B—二四号教室で行なわれていた教員集会へ乱入

教授会声明撤回を要求。

一〇月七日(火)

大学院団交。



月ごとのたより 井手口記

人々はいつも平和を愛すると言うときに戦争を始める。

(44・9・10)

平和の喧ましい叫びは闘いのときの声よりもなおひととおのかせる。

(44・11・12)

平和を愛するという理由がどこにある？ 戦争をするのが悪いことはあまりに明白だ。

(45・1・2)

この詩は、ロレンス(英)の「平和と戦争」の発頭の章である。

()内は筆者の作意で勿論原文にはないし、その数字は、本学の屋台骨をゆすった昨年度紛争の震度の激しかった年・月をさし、この詩に結びつけて何かを譬喩してみようと試みたつもりであるからこれからとめる本学「月ごとのたより」の中から汲みとつてもえたら筆者の喜びはつきる。

とにかくも、紛争を除いてはいずれの大学も存在しなかったような昨年度であるから、紛争がきざんだ物理的な「時」をみるべに、月ごとの学園の移り変りを拾ってみよう。

44年6月 誰しも、眠れる獅子をわざわざ起す者はいまい。全国的に拡大をはじめたスチューデント・パワーを望見しながらも、この若き本学の獅子たちはいまだ覚めずと判断し、「障らぬ神に崇りなし」と、不即不離の対策がとられたのはやむを得なかったともいえる。

そのうち、本学の学生派閥の主流が、他大学にみられる過激派と

読売奨学制度、大学院のあり方。

一〇月二〇日(月)

一〇月二二日(火)

第八回大衆団交。席上「公開教授会」開く。教授会声明「学生諸君に訴える」撤回承認。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

は異質なものがあから封鎖はないかもしれない、と、今にして思えば「ねがい」に近いあまい見通しの芽生えた頃でもある。

44年7月 ことに夏休みを目前にひかえるや、空白による不連続性を楯に判断して、ひとまず休息できるし、また休暇中にあるいは火勢が衰えるかもしれないとねがうはかない望みも併せて、ひと汐安堵感が学内に満ちていった。

一方、学生側もまだ全共闘(全学共闘会議)とは名乗らず、安保閣(安保閣争奪委員会)の傘下に各派が集合して行動していたし、そのこともまた誤謬を招く一因となったとも思えるのは、「全共闘」を呼称すれば一般学生が離れて彼らは孤立すると推測し、彼らが虎視眈眈、全共闘の旗を掲げる期をねらい、人知れぬ工作が続けられていたことを見落してしまった。

44年8月 無気味な空間でもあった。ヤレヤレと解放感をむさぼった月でもあった。いろんな情報がつつの間にか集ってきたり、にわかにか紛争評論家が輩出したのもこの月であった。「時」が、コソコソと象牙の塔の互解を刻んでいることも知らず嵐の前の静けさが流れていた。

このような時期、幸いにも？立看の無い珍らしい本学キャンパスに、約八十名を一同とする高校側進学指導教員の来訪をうけ、藤田学長・田岡理事長の出席を得て説明会を催した。

当時の本学は、まだ他大学を比較しながら、得々と学内状況の説明ができたが、今にして思えば冷汗を禁じ得ない。

44年9月 後期授業開始直前から活動家学生の行動が積極化していた。

果せるかな、「読売奨学学生問題」が忽然と提起され、アレヨアレヨと思ううちに安保閣にとっては起死回生とも思われる強力なアッパーとなって大学側をよるめかせってしまった。

大学は、前期試験粉碎の呼称は予想したところであったが、思いもよらぬこの問題には戸迷わざるを得なかった。しかし、まだ話しあえるとする希望的な観察が、積極的にこの問題を掘り下げてみようとしな原因につながり、また感覚的なズレが、基本的な研究において常に彼らに先手をとられる結果を生み、そのままずると淵の深みへと足をとられていった。誰がこのとき、一新聞社の奨学制度が学内の人間関係を目茶苦茶にし、藤田学長を辞任に追い込むまでの問題となろうことを想像したものがあるうか。

更に反省しなければならぬことは、彼らが放ったこのアッパーは左右ともかなりキイタと思われることである。

その左アッパーと言えるのは、ノンポリと、やや軽くあしらわれた感のあった一般学生に予期以上にアピールし、大学側特に藤田学長がいつの間にか全学生の冷たい批判を浴びる被告席に坐らせられていたことである。

このあたりから、大学側の研究不足による苦悩と苛立ちが見えはじめ、更に悲しむべき現象は、過

去の楽観姿勢を懐しむ郷愁に似た逃避が、積極的に問題を分析しようとしないで、「時の流れ」に便乗しようとする教職員を多く生み出したことである。

筆者は、この頃から徐々に深まりはじめた教授会内部の分裂の溝は、この「傍観者」の一群に原因と責任があるように感じる。

関大活動学生の応援に力を得た彼らの対革マル実行使、いわゆる「内ゲバ」もはじめておきた。

十八日には本学開びやく以来の「大衆団交」も行なわれ、十九日第二回団交では藤田学長にドクターストップがかかる程激しいものであったが、情無用の彼らは、安静中の学長室までデモランとして教職員に押し戻されるという一駒も、記憶に生々しい。

二十四日未明、約二時間で本館は封鎖された。

前期試験は大学側の意思にかかわらず事実上流れてしまったのである。筆者はその前夜、即ち二十三日の夜半、封鎖に備えて十分警戒態勢をとりながら尚、封鎖なしと断じた合議の席上で、自らも反論し得なかつたことを残念ながら告白しなければならぬ。そのような我田引水ムードが、まだ全体を支配していたのである。

二十五日、一般学生の自主的全学集会は封鎖の可否を問う投票の結果、千五百四十七対九百十七で解除を決議し、彼らの天下は一日にして終ったかに見えた。大学側は誰となく明智光秀の故事を口にしたが、彼らが抵抗もなく明け渡したのは、いち早く大勢の不利を見抜いた一策であったのだ。

このあたり、戦術的にも決断に

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。

一〇月二二日(火)

一〇月二二日(火) 経済学部長、学生部長入院。安保閣長文電報で一〇月二八日団交出席を要請。学長「公開教授会」を認めず。



「公開教授会」開催を拒否。

一二月二日(火)

第一四回大衆団交を拒否。全共闘約四〇名、鉄パイプ、角材ヘルメットで武装し三回にわたり体育館を襲撃。負傷者一二名内重傷二名。

一二月三日(水)

六日まで全学休講発表。

一二月六日(土)

経済学部長代行選出。

一二月七日(日)

経営学部長代行選出。

一二月八日(月)

経済、経営、教養部会声明。全共闘の暴力行為を糾弾。引続き年内休講を発表。

一二月一〇日(木)

教授会(学外)で学長代行選出。全共闘西学舎各門B館事務室を封鎖。

一二月一八日(木)

経済、経営、教養部会声明。「大阪経済大学の現状について」を発表。

一二月二八日(土)

封鎖学生に退去命令。

一月四日(日)

封鎖学生に再度退去命令。

一月六日(火)

凶器準備集合罪、傷害罪等の令状

一二月二五日(火)

第一三回大衆団交。

一二月一八日(火)

全学休講。封鎖を解除する有志。全共闘。午後投石。

一二月二〇日(木)

全共闘、一二月二五日団交要請電報。

一二月二五日(火)

第一三回大衆団交。

して実施する。従って恒例の学長祝辞はそれぞれの教室で代読された。

さすがに全共闘もトラブルは起さなかったが、はじめてのこの方式には教職員、賛否こもごもというところ。

異例といえば、卒業式が三十日になったことも近年さかのぼってみて珍らしい。

45年4月 分散入学式

われわれもまた、全共闘の入学式粉粹がどのような形で表れるか見守っていたが、結局二、三の教室をアジッて終る。

新入生への反応は、今のところ嫌悪感が強いように見えた。この月十三日夜、十一時二十五分、和歌山放送一四三〇KC、田岡理事長の第一声電波にのる。「今夜もひとこと」、この番組みはこの日から一年、毎夜、その時間に本学の担当で編成される。

聞きなれたその声をあてて下さい。

45年5月 根はいまだ枯れず：

四月はじめ、立看も貼紙も、ほとんどなくなっていたキャンパスであったが、最近では、昨年のこの時期と同様に無遠慮にところかまわず貼りめぐらされはじめた。

そのことは、彼らの活動の積極性についてのバロメーターでもあった。その上彼らの行動に何よりも幸いしたことは、安保自動延長という歴史的事実を闘争目標にかかげて十分利用できたことである。「安保粉砕」と「大学解体」が、どの次元でイクルオルするかは論外としても、安保こそ彼らの隠れ蓑として、今後尚役立つことであろう。このような状態の中であ

お大学が、恒久方針のない、その場かぎりの対策の積みあげに終始せんか更に一般学生から遊離し、あるいは敵対視されて、昨年以上の事態を招来する恐れなしとしな

い。時として「決断」は妥協よりもより効果をもたらすとは、筆者の耳にささやかれた数多くの声である。そしてその断ずる心の抛りどころは、母校を離れて、母校に注ぐ、同窓生の慈眼に寄せられるであらうことを確信する。

この月十七日、北岡教授の悲報は我々の心に大きな波紋を呼びおこした。その因と果が何であるかはわからぬままにも、それぞれの胸に、それぞれの思いが去来していつまでもその波紋は波うった。謹しんで、ご冥福を祈る。

結びに、筆者はフロスト(米)の詩「火と氷」を添えてたよりを終りたい。

勿論、この詩の評価は皆さん自身のご自由に……。

火 と 氷

或るものは 世の終りは火になる
或るものは 氷になると言う
或るものは 氷になると言う
自分が欲望を味わい知ったところからは

わたしは 火になると言う人々と同じ考えを持つ。
だが、もし世界の滅亡が二度あるものならば
わたしは 憎悪も十分知っているから

壊滅のためには
水もまた偉大で
それで足りるだろうと言うかも知れない。
一九七〇・六(本校広報部職員)

このまえ、東京大学の改革準備調査会が公表した国立大学をめぐる大学行政についての報告書を、たまたま読んだ。学生問題は、いちおう鳴りをひそめたかにみえるが、その底流のうごめきを、私はみつめた。それは大阪経済大学にも、たいへんな関係と影響がないとはいえないからだが……。

新しい総合大学を求めて、このレポートは自由な立ち場というところで、大学の未来像を描きだしてはいるが、それなりに批判や議論もある

う。しかし、ここではこのビジョンにエッセンスがあるならば、このエッセンスだけを、大阪経大にあてはめることは、困難なことになるだろうか。

いつも考えることなのだが、大阪経大には、もつと思想というものの究めや、その取り組み方があってもよからうと思

う。この思想との対決なしには、改革もなければ進歩もないだろう。そこで、いったい教育とはなんであろうか。学問とはいかなることであろうか。東大の報告書は体制批判的知識人の育成とか、人間形成などいくつかの考え方があがるがそれは各自の人生観や世界観によることで、大学として統一することはできないといっている。なるほど思想の自由にかかわり、単一の結論をだすのは、適当でないといわけだ。ただ大学の

新しい大学像を求めて

荒牧博之

共通の目的は、真理の探究により、人間の進歩に貢献することであるといっているが、私はなにかひとつ忘れられているような気がしてならない。

教育というものは、知性の練磨とか、人間形成とか、ひいては人間の進歩ということになってゆくわけであるが、その過程には、もつときびしいはづの、人間についての愛の見きわめが、あってもよからうと思う。

その見きわめがあつてこそ、人間としてのほんとうの進歩があるのではなからうか。ところで、

東大の改革案だが、教育や研究の欠陥は、教育内容や卒業・入試制度を、根本的に再検討しなければならぬといっている。たとえば「学問の自由」が、「学問をしない自由」にならないように、教授の資格審査制や任期制などをあげている。これは、当面は教授の定年引下げや、学年末には学生に授業評価をさせることを提案している。国立大学の改革案としては、思いきったつもりということができるであろうが、いまさら思いついたというほどのことではなく、大阪経大は、このような改革を、どのように受けとめることができるであろうか。学長の交替や新しい大学の態勢づくりが、いま行なわれていると思うが、大阪経大が愛にみちた知性たどう力あふるる大学であるよう願ってやまない。



北岡先生

故北岡先生 故葛間君 のこと

第三十四回 北岡ゼミ・OB 山本光章

薫風目にしみる朝霧の中で艱難辛苦、忍従の思いに我身を余すところなくして師は静かに長逝されました。私ども、特にゼミやグリークラブで師の指導をたまわりました者にとりましては、余りにも突然で支柱を失いましたような動揺が胸中を走りまわりました。

常に温厚実直で、生徒の優学教授・進路指導に当ってこられましたのに、本当に残念と申しませうか婦らぬ師となられ拜眉の機を得ることすらなくなりまわりました。惜寂の念は至上なきものとなりまして今も講義風景が走馬灯のように思い浮んで参ります。学内におかれましては師弟を離れ、優しい父親のようでもあり、また兄貴のようなムードを漂わせ常におかれわれと接して頂きました。師宅をも訪問し、人生経験や苦節の数々を美酒のさかなに拝聴し、われわれの今の環境の甘弱さに気づき

学園紛争は思わぬ犠牲者を出す。全国の各大学で傷ましい事件が相ついでだが、ついに本学でも北岡先生の死という悲しむべき事態が起きた。また一方、天六のガス爆発事故においては、わが同窓の葛間君が府警機動隊第二中隊長として出動、火中に挺身、ガス中毒のために帰らぬ人となった。事情は違え、まことに思い深い人であった。ここに追悼の言葉をおく。両氏の生前の業績をたたえ、ここに追悼の言葉をおく。両

奮起させて頂いたことを思い出します。

また、温厚実直一本かと思えますと、ゼミ旅行で南九州に参りましたとき開聞岳下の海岸で突如裸になられ海にザブン……、いくら南九州とはいえ、また、地熱で海水が少しは熱いと申しましてもまだ三月下旬、われわれ若者に勝るファイトに飄然な面もあるという一面を見せて頂いたような気もしました。このような思い出がわれわれの心の中から離れず師と接触しました。また、心の中に交錯した精神生活の高揚は、今になり良く理解できるような気がいたします。

師は近年、理論と経験的裏付けとが調和を保ち新しい洞察をもって国際経済の分野を研究したヌルクセ理論の研究や、近代経済学的な思考法による消費と貯蓄の行動形態が景気循環理論を呈していることや、政治経済学や経済学の基礎理論の研究として低開発地域の経済理論等をテーマとされ、われわれの若く脈動する血潮を十分に汲みとって頂きデイスカッションし、充実した学内教授により、その師の志を受けて活動せねばならない境遇に立ち、はじめて気づきましたとき師はもうこの世の人でない。こんなに寂しいことがあってもいいものではないか。貧困生活しかできない低開発国・後進国の実情を師はわれわれに教授下され、ベトナム、カンボジア等の難民戦略に包まれた苦悩の生活を解いて下さいました。また、反戦、沖縄返還、安保反対、学内紛争等が益々激化して行く中にありまして師は、常に理論を通して冷静な立場で思考され、判断されておられました。われわれもそうありたいと思いつつ常々師に反動

を覚えたことがありました。しかしその師はもう……。

葬儀の日も学長先生を始め諸師、事務局、在学生、OB、同窓会等が信じられない現実として師の他界を悼み、限りなき悲哀に苦しみ涙し、尊き人生を閉じられた師にもう一度拝顔いたしたく参列いたしました……。師を失いましたわれわれにとりまして師の志が支柱となり、人生の思考の上に大きく育成させていかねば師の志が無意味になります。師の苦悩はわれわれの苦悩でもあり、師の歓喜はわれわれの歓喜でもありましただけに、師の他界は身を切られるような思いがいたします。

もう総て過去のこととなりましたが師の志と、師の思い出は永遠に消えることなく、また、教授頂いたわれわれが後輩に伝えていかねばなりません。その義務と責任をわれわれは果さねばなりません。師も高く澄んだ何のへだてもない住み良い社会で景気論を講義しておられることでしょうか。師の死がわれわれにとって後退ではありませんがこの死に報いるように全徒、全民が再考し世の矛盾に浸ることなく是正し、一日も早く互いの幸福が来ることを祈りたいと思います。師はわれわれの幸福を願っておられます。自らの幸福を放棄し他人の幸福を望む師、われわれは師の志を無駄にしてはなりません。互いに協調と融和の精神で前進せねばなりません。それを最後の講義(抗議)として師は逝かれたのです。この志をわれわれは互に確固として胸中に納め、師に哀悼の意を捧げ、ご遺族の皆様のご奮起とご健康をお祈りさせて頂きたいと思っております。

ああ！葛間君

経大三十一回 常任幹事 谷口一郎

昭和四五年四月九日午前九時一〇分、君は永久の眠りにつれた。ガス爆発という未曾有の大惨事の犠牲者救助活動中、不運にも君自身が犠牲者になって社会的・道義的な責任を果たしたことは、われわれの胸を強く打った。

思えば「自由で揺がぬ 自治立つ学園 大阪 大阪経済大学」と君と共に斉唱したとおり、わが経大は自由で明るい学園であったが、このわが母校が、学園紛争の過程で、封鎖解除が大阪府警機動隊の手で行なわれるというアクシデントがあつ

たとき、君は、よく母校愛と公務の責務との悩みに打ち勝ち機動隊の第二中隊長として沈着勇断の指揮をとったとのこと、同期の友として感激の念で一杯だった。

昭和三十一年三月卒業したわれわれ五一〇名で「経大三一会」を結成したが、そのメンバーの一人を亡くして残念でならない。君と共に学んだ風間ゼミの大規をはじめ、森本、阪根、高鳥らも君と「経大三一会」の例会で顔を会わせるのを楽しみにしていたのに、もう二度と君に会えない……。われわれ大阪経済大学同期会「経大三一会」の全メンバーは、学生時代の君のアルバムをみながら、君の栄光の殉職をたたえ、誇りとし、永久に一人、一人の胸にきざみたい。

葛間君、安らかに眠れ!!

よき友を亡くしてぼう然としている。かれほど部下に慕われた中隊長はいない。隣の部屋からかれの元気な声が聞こえてこないのが淋しくて仕方がない……。ジャン友、酒友として、いま一度語りたい、会いたい!! 虫の知らせか、四月四日家族サービスで万博見物に行ったのが最後になるうとは……。とにかく淋しい……。

(かれのよき同僚・大阪府警第一機動隊第一中隊長) 警部 佐藤 安晃氏



葛間君

昭和四五年四月八日午後五時三〇分頃、大阪市 警視 泉 十三郎氏

葛間君殉職の概要
長男 俊孝 小学校六年
長女 由美 小学校三年

公葬の報告

昭和四五年五月一日午後二時より大阪南大斎場において府警本部警備部葬がおこなわれ、大卒、同窓会ならびに経大三一会が供齋し、参列して追悼の念を捧げた。
本葬は敵愾をきわめ、各大臣、知事、市長をはじめ高官多数が広大な式場を埋め尽し、特に、警察音楽隊による故葛間警視正追悼の曲には全員目頭をあつくするとともに、治安の神となられた友を同窓にもった事の誇りを一きわ強く感じました。(経大三一会・大槻記)

同窓会も 入試に一役

私学にとって、入学試験が行なえるか、行なえないかは、その存立にか、わる重大問題である。本学にとつても例外ではない。隠忍に隠忍をかさね、もっぱら話合解決のぞみを托していたものの、入試のタイムリミットがきて、本意ながら機動隊導入に踏みきらざるを得なかった。
しかし、封鎖は解除したものの全共斗は入試粉砕を叫び、その安全への保障は得られないという。

そこで大学側から同窓会への入試援助の申し入れがなされたのであったが、この入試応援にかけつけていただいた同窓生の数は延べ五百人を越えた。大学の危機に何はさておいても、早朝から続々と応援に駆けつけていただいたのはまことに頭が下ったが、そのかいあって、何一つトラブルなしに入試は無事終り、本学はまた新しい一回生を迎えることになったのである。



「大阪経大論集」購読希望者へ

本学の全学的な学術機関誌「大阪経大論集」は昭和25年創刊以来定期的に発行され、最近では隔月刊として発行出来るまでになりました。

卒業後も購読を希望される方には下記によりお願ひいたします。せいぜいご利用下さい。

1. 年間 昭和45年度 No.75 (昭45. 5) ~No.80 (昭46. 3) ￥ 500
 なお昭和40~45年度No.47~No.80 (計34冊) お申し込みの方には ￥ 2,500

2. 分売 各号 ￥100 プラス 送料 卒業年度、送付先を銘記の上代金を添えお申込み下さい。

申込先 大阪市東淀川区大隅通2丁目 大阪経済大学研究所内 大阪経大会



準備完了、こゝを受験生は受験票を見せて通る
真剣に問題に取り組む——入試会場



正門前いっぱい受験生



入試紛碎のキャンパスの前で何を思う



入試を終えてほっと……。晴れやかに退場受験生

入試粉碎を呼んで正門前に集った全共斗

2つの対比



黒正先生に捧ぐ

岡山支部支部長

大森喜太志

黒正先生!!先生が突如として私達の目の前から黄泉の旅に立たれてもう二〇年目の夏が巡ってまいりました。七年、一〇年と大阪経大同窓会岡山支部で先生を追悼申し上げる会をしてまいりましたが、何時も先生とお別れしたのでつい先日だったような気がしてなりません。今年はどうとう二〇年目の追悼会となりましたがやはりそんな気持ちでございませぬ。

今日はここの桃花苑で遺族、友人、知人そして大阪経済大学並びに同窓会の皆さんに集って頂き、先生の御霊の前で静かに心から先生と語り合う機会を設けましたのでどうかおうけ下さいますようお願いいたします。

今午前九時二〇分唯今から神官二名により、先生の御霊への祭事をさしていただきます。ご覧下さい向う側の来賓席には先生の奥様も、そして何時も先生の両手にぶらさがっていた清君も、明君もまたご親族の方々が生のご遺影を喰い入るようになつて見つけられておられます。大阪経済大学からは藤田学長、岡田理事長を始め奥村、浅沼、藤原等の諸先生方、同窓会本部からは渡辺理事長、比企、陰下、岸本各役員、それに長島神戸支部長、水上三重支部長の皆さん方も直接先生に接したことがある人許りちつと往時を想い浮べてか静かに神事を見守っておられる姿も一しほ感慨無量といふべきでしょう。また地元からは一番にかけつけて下さった高原豊山、

伊原木貞秀、大山茂昭、近藤洋逸、武田長太郎氏など特別に親しかった諸先生方も今先生のご霊前に着席していらつしやいます。そして大阪経済大学同窓会岡山支部の第五回卒権正雄先輩を始めとする四二名の支部員が会場に参集して、今おごそかに先生の御霊に対しての祭事を静かにそして感激と追慕の念を胸に秘めて見守っております。

黒正先生!! どうか安らかに：心からご冥福をお祈り申し上げます。同窓生の中には先生に直接ご指導を頂けなかつた卒業生も段々と多くなつてまいりました。しかし大阪経済大学が続く限り黒正先生の遺徳は永遠に我等同窓生の心の中に続いて行くであろうことを今この祭事の最中に確信を持って申し上げることが出来ます。唯何故に先生はこんな早く他界されたのか、もし現在まで生存して下さっていたら、そのみが今日の参列者一同の偽らざる気持ちでございませぬ。主だった方々に玉串を奉典して頂きました。これが無事神事を終ります。今渡辺同窓会理事長が主催者側を代表して皆さんにご挨拶をして頂いております。これから貸切りバスに乗って先生の生家の上の先生のご墓所に全員墓参に行きます。

先生今ご墓前に到着しました。何時お参りしてもこの土地で少年時代を過ごされここから東山峠を毎日正確な時刻に越して第六高等学

校にご通学になつていたのかと、黒正先生の面影に勝手に当時の六高の制服を着せして想像すると何か知らぬ微笑を禁じ得ない気持ちになつてしまいます。

藤田学長、渡辺理事長も胸に花束をかかえて先生の墓前に進まれ静かに奉供されておられるへております。恐らく今また静かに心で先生と語り合つておられるのでしょう。

奥様も清君も明君も二〇年経つた今、お父さん僕達もこんな大人になりました見てやうて下さいと心で叫んで供物をお水を捧げていらつしやることと思います。先生本場に立派になつていらつしやいます。良く見てあげて下さい。参列者一同お水を供物を――そして先生の大好きだったビールをお供へして、この大樹の茂る、静かな昼なお淡暗いこの墓地でじつと先生を知る人は想出を辿り、先生を知らざる人々はその遺徳の偉大さに感激をおぼえておることでしょう。何時まで墓前におりまして何か知り難い気持ち一杯ですが、これからまた桃花苑で先生の追悼座談会を兼ねて同窓会支部総会を開きますので先生もう帰ります。

墓地から県道のバス駐車場のところまでのこの農道は、先生が少年時代から良くお通りになつた道でしょう。皆さんで先生の幼少の頃からのお話を親族の方や地元の方々にお聞きしながらバスまで帰つてまいりました。何んだか先生の墓参をすまして帰つておるのはなく、先生も同じようにこの列の中に童顔に微笑をたたへながらステッキを振り振り一緒にバスまで帰つて来られるような気がしてなりません。

先生!! またお会しに参ります。どうか安らかにおやすみ下さい。さようなら、さようなら、また、参ります。皆さんも墓地の方向をぢつと見ていらつしやいます。きつとまた皆さんでまいります。

昭和四十四年九月七日



あのことろのこと・5

期 展 発

- ▽…この企画は、卒業生の口づてに伝える学園の歴史である。△
- ▽…この学園も、創設されてすでに三十有余年、その間幾多の△
- ▽…波乱、幾多の変せんを経て、いまや大阪経済大学として、△
- ▽…揺ぎない基盤の上に立派な校風をうちたてた。思えば浪△
- ▽…華高等商業学校にはじまり、昭和高等商業学校さらには△
- ▽…大阪女子経済専門学校、大阪経済専門学校、そして大阪△
- ▽…経済大学へと五つの大きな変動期を経過。それぞれに苦△
- ▽…難の道ではあったが、苦しみにつけ悲しみにつけ、はた△
- ▽…また喜びにつけ、いまは楽しい思い出として、それぞれ△
- ▽…卒業生の胸に暖く宿っている。その折り折りのエピソード△
- ▽…ドーそのエピソードを綴り合せたのがこのページである。△

大学昇格にすべてを

(十六回〜二十回)

今回も、例によって題をどうつけるかで議論になった。時代が終戦間もない激動期だっただけに、そのままをとって激動期というのはどうだろう。学校制度の改革期でもあり、学生生活にもいろいろの変動があった、これをとって変動期はどうだろうという意見。どちらもピッタリという感じだが、いかんせん両方ともすでに使用済み、だったら両方から頭だけとって激変期はどうだろうという意見もあったが、激変期ではあまりにもオーバーすぎる。いっそ趣きを変えて、大学昇格を果した時期でもあるので発展期にしたら——たしかにものは考えようである。学園そのものからいえば、一大飛躍をとげた年代でもある。少々あつかましが、これでいこうということになった。

しかし題は一応発展期とはつけてみたが、その後は発展期にふさわしい景気のよい話はいっこうに出てこない。時代が時代である。敗戦直後

先輩に感謝

冒頭にもあったように、なるほどわれわれの年代で大学昇格という宿願を果した。それなりの努力もした。しかし、この大学昇格にあたって、まず特筆しておかなければならないのは、先輩達の献身的な努力である。

大学昇格問題は、第十六回生が入学当初からの大きな課題ではあった

この見すばらしい校舎の上に、さらに新制岡山大へ昇格するためのいくつかの条件も欠けていた。

その第一は、校長(学長)が不在であること、先生達の研究室がないこと、独立した図書館をもたないこと、蔵書が少いこと等々、かなり決

定的な条件が不足していた。グラウンドも、やっとな野菜畠、いも畠から解放されたものの、草ぼうぼうで、トラックさえも定かでないという状態だった。

こうした、いくつかの不備をおぎなうために、学校はもとより学生もうって一丸となって懸命の努力が重ねられた。

学長問題は、つぎの項にゆずるが、研究所の問題は、現在の大学院館を一部学生のクラブ室に使用していた。これを、本来の目的である研究室に使用することとして、クラブ室は別途建てることにした。当然学校施設であるから学校負担といきたいところだが、学校の金庫はカラッポ、やむを得ず自治会費で建築することになり出来上ったのが正門横の芸術、学術各部の部室である。自治会費とて知れている。そう立派なものが出る筈のものではない。屋根は雨露をしのぐだけ、横の壁は新聞の紙型、その上に白い塗料をぬっただけ、これがかわくとあとからあとからハゲてくるのだからたまったものではない。隣りの会話もつつ抜け、なんともおそまつなものだった。通称「馬小屋」、細長い建物を六つか七つに分けたものだけに、この表現がピッタリだった。

土台だけの図書館

自治会で建てたものは、この部室だけではない。大学昇格に是非とも必要な図書館も、土台だけは自治会の金でつくった。土台だけというのは窮余の一策、つまり文部省の視察に対してここに建てますという準備工作でセメントを固めただけのもの、一応この策は成功して視察官は納得して帰ったが、あとになってこ

の急場の工事が物議をかもすことになった。

というのは、この土台のセメントが視察も終って、しばらくするとこぼぼとくずれてきた。セメントをケチッテ砂を多くした加減だろうか、指でつついてもくずれてくるのである。その横を毎日学生は通るのである。あんまりひどいと問題になった。自治会もなるほどねざりにねざったが、これほどとは思わなかった。ちょっとした数千万円の金である。けしからんというので、その責任者を学生大会にまで呼び出して追求したものである。結果は、たしか値引きということで落着いたと思うが、いまはその土台はすっかり取り払われて、A館校舎が建っている。

つぎに、労力奉仕ということでは、校舎全体の清掃はもとより校庭の整備、草ひきも全校生でやった。要領のいい学生はなんとか抜け出すうとするが、正門、裏門などに見張りを立てて、それこそ強制労働に近いものだった。用具もそうたくさんあるわけのものではない。隣りの大隅小学校や近所の農家から借り受けて、草をむしり、土をならした。当時シベリヤ婦りの復員が話題になって、ノルマという言葉がしきりに使われたが、自治会も強制的にこのノルマをかけ、学園全体の整備にあたった。

トラブルがなかったわけではない。相当激しい反発もあった。し



黒正先生の学園葬

か、大学昇格という至上命令がすべてに優先した。いまから思えば授業料に比べ、とてつもない自治会費であったが、よく学生も父兄も協力をしてくれた。これだけの努力があっただけに、昇格の通知を受けた時の喜びは何にもかえがたいものがあった。十五回生は、この喜びだけをかみしめて、学園を去っていったが、その献身的な努力に対し、誌上を借りて厚くお礼を申し上げる次第である。

黒正学長の死

先程も少しふれた学長問題では、いましばらく黒正先生に紙面をさかなければならぬ。

黒正先生の復帰の問題は、前回のこの項にも語られていたが、大学昇格にあたっては、その成否がかかっていただけに、学園も学生も必死だった。委員はなげなしの金をはたいて、何度東京、岡山の間を往復したことだろう。

黒正先生は、当時第六高等学校の校長で、すでに早くから六高を中心とする新制岡山大の学長に擬せられていた。それより以前にも文部大臣という声さえかかった大物である。わが学園の創設者とはいえず、生まれ故郷の大学の、それも学長の椅子を振り切つて帰つて下さい、というのには相当の無理があった。しかしわが校としても背に腹はかえられぬ、文部省の強い要望であつてみれば強引にくどかざるを得なかったわけである。

黒正先生にしても、巨額の私財までも投げうってつくられた学園である。当然愛着はあった。しかし、岡山は岡山で学生、市民、財界をあげて黒正先生の引きとめにかかり、大阪の県人会もこれを支持した。そんな中で黒正先生の悩みも相当なものがあったに違いない。

われわれの強引な説得に、ついぞ見られなかった激しい叱責の言葉もあった。ものない時代であつたが、お茶がわりにビールをご馳走になりながら、苦しい胸のうちをおききたこともあった。

しかし、最後にはわれわれの切なる願いを聞きとどけていただき、学長就任の返答をいただいた。そして昇格である。

やっとなこれ、名実ともに大学になるのだと、ほっと安堵の胸をなでおろし、じわじわ沸きあがる喜びをかみしめていたのもつかの間、今度は突如「黒正先生死す」の悲報に接した。

平素からのお酒好き、お茶がわりにビールを愛飲された先生である。血圧の問題もあつたらう。それに昇格にあつたご心労、そういったものがつりつもつて、ついに死に

至らしめた。まことに痛恨のきわみ、全校をあげてその死をいたみ、校葬でもって先生の霊をおおくりしたが、忘れ得ぬ大きな出来事だった。

激しかった学生運動

つぎに、思い出として残るものは、かすかすの学生運動である。現在の学園紛争とはまた違った意味で、学生運動は激しかった。特に当時は敗戦後の混乱期である。占領政策は着々と進められ、これに盲従する政治のあり方は、学生の大きな怒をかきた。また一方では、食

んがための闘争もあった。生活が追いつめられれば、追いつめられるだけ、その反撥も激しい。学生、労働者、一般市民をあげての生活闘争の波は大きな盛り上がりを見せた。

こうした渦の中で、わが校も無縁たり得ず、むしろこれに積極的に参加した。

「全学連」という名前が、海外にまで勇名をハセるようになったのもちょうどこの頃である。全学連の下部組織に私学連が誕生し、これがそれぞれのセクトに分かれていたが、わが校の場合は常に独自の判断で、これに参加した。



楽しかった運動会。左下はファイアーストーム

ただ、この激しい一連の学生運動も、現在の学園紛争と違うところは、常に先生と学生との間に対話があり、時には行をともし、時にはお互いがゆずり合ったことである。何回かのストもやったが、ギスギスした感じはなかった。それなりの理解はあったと思っている。街頭に出るの市民への呼びかけ、また署名運動などもやったが、常に一般市民の共感を得ていたことも事実である。

芸術祭、体育祭のこと

こう書いてくると、何とも重苦しい学生生活のように受けとられることと思うが、一方でははめをはずした愉快な出来事もたくさんあった。一年一度の芸術祭を晴れの朝日会館の舞台に移し、はなばなしくやったことも思い出の一つだし、すき腹を抱えながらの体育祭で、リレーの一等賞品がなんとびっくり慢頭、子供頭の頭ほどの馬鹿デカイパンをもらって、分け合って食べた思い出、これなど食糧難時代の運動会であったからその賞品であり、仮装行列の賞品がこれまた焼酒二本、これをコップで飲んでファイアーストームをやった思い出、昨日のように鮮明に記憶に残っている。

そうそう、そういえばこの時に歌った逍遙歌や学歌は、その頃に出来た。逍遙歌の作詞は十六回生の中村君、作曲は十五回生の松川君と学生の手でつくられ、学歌は故秋木先生の作詞、作曲は東京音大の柴田先生と、いまも歌いつづけられている二つの歌が時を同じくして出来たことも自慢していいだろう。

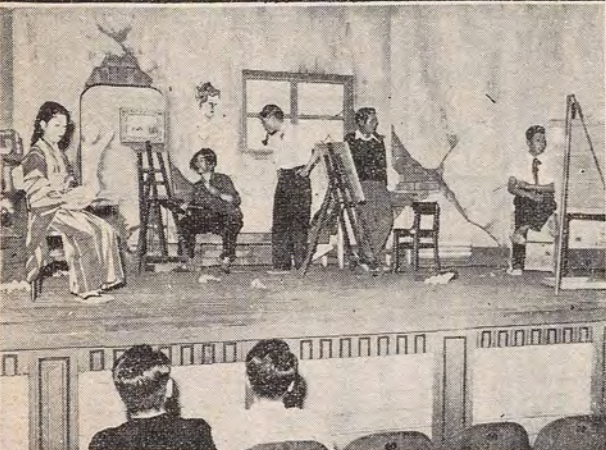
思わぬハプニングといえば「消防クジ」のことを落すわけにはいかな

この原稿は、つぎの方達にお集り願ひ、いろいろとお話をおききした中からまとめたものです。(順不同)

- 第16回生 陰下 嘉典氏、永滝 達三氏、福田 耕氏
 - 第17回生 酒井 克己氏、桜井 弘志氏、中里 幸一氏、松島善太郎氏、長谷川 昭氏
 - 第18回生 貝塚 茂氏、三根 礼三氏
 - 第19回生 牧田 安夫氏、畑田 稔氏
 - 第20回生 橋本基一郎氏、平田 五郎氏、津地多嘉生氏、吉村 忠一氏、小林 郁夫氏
- 編集部から松本、山中出席、なお、16回と18回、17回と19回は専門学校卒と大学卒とだぶっている方もあります。

い。大阪市の消防局が機械整備のために出した消防クジを買ってこれと置いて帰った何十枚かの宝クジの中に、何と一等当選一〇万円のクジが入っていたのである。これにはみんなビックリ、早速賞金にかえて、さてこれを何につかうかカンカンガクガクやり合ったが、ついに結論を見ないまま、自治会の顔ぶれが変わって、いつのまにか全体予算の中に組み込まれるという、思わぬ一幕もあった。つぎには、恋愛事件。当時はまだ男女共学の余じんが残り、学生同士の恋愛事件もいくつもあった。これがそのままカッパルとなって、

大阪聖済大学昇格記念祭 於朝日会館 昭和二十四年六月二十二日



朝日会館での大学祭

いまはいいお父さん、お母さんになつていくケースもいくつもあるが、反面悲恋に終わったものも少なくない。学校での女子学生の服毒自殺という未曾有の出来ごともあった。バスをとめて乗客を降ろし、病院まで運んだが、ついに帰らぬ人となった。何とも後味の悪い思い出もある。

しかし、おしなべて楽しい思い出の方が多かった。学生の数が少なかったこと、一つの目的に全校一致して行動を共にしたことなど団結は固く、人間と人間とのふれ合いも豊かなものがあつた。

それと、戦後のないないずくしの時代、ともにいもやナンバ粉で生活をしてきた時代である。貧富の差もなく、同列の人間が苦楽を共にしているという共通の思いがあつた。これは先生にもいえることである。すき腹は誰も同じ、同じものを食べ、同じように目的をもち、同じよう

としてのふれ合いがある。学問の方は、そう優秀ではなかったかも知れないが、ある先生は、いみじくも「お前達が最初にして最後の弟子かも知れないな」といわれたことがあつたが、この心と心のふれ合いが、いまの言葉になつているのかも知れない。

楽しかったクラブ活動

つぎに書き落すことの出来ないのはクラブ活動である。全学合せても八百人足らずの学校であつてみれば、クラブ活動をやるにも限界はあつた。部員が集らなく

て四苦八苦のクラブでもあつたし、運動部などでは何年やつてもCクラス、Bクラスから上がれないクラブもあつた。不足したのは部員だけではない。予算の方も同様、ほとんどが自腹というのが当時の姿だつた。それはそうだろう、予算は大学昇

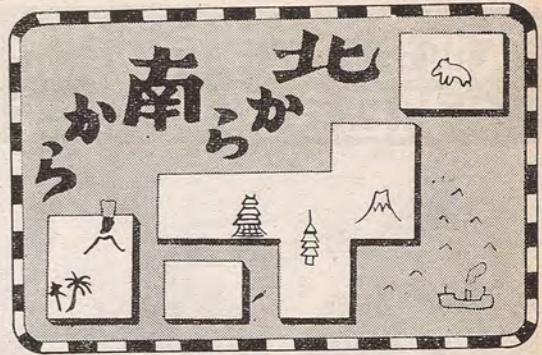
格のため大半をとられ、その余つた分を運動、体育、芸術、新聞などに分け、それをまた中で分けるのだから満足はゆく筈はない。いつも分捕り合戦でもめにもめぬいたが、時には暴力事件にまで発展したこともあつた。

しかし、分ち終ればあとは残らない。乏しい予算を最大限に生かして、思い思いに伸び伸びと運動に研究に励んだものである。

芸術部は、先にも書いたように朝日会館の晴れの舞台を踏んだし、学術部は学術部でその成果をまとめ発表した。運動部は運動部で対抗試合や大会に参加、それぞれの成果をあげた。運動部で比較的成績のよかったのがサッカー部、出来たばかりの軟式野球部、庭球部など、特別の成績はあがらないまでも、練習に合宿に楽しい思い出を残している。

後任学長と先生の思い出

最後に先生の思い出にふれておこう。黒正先生亡きあと、さし当って後任学長を選ばなければならぬ。ここでも、各方面へいろいろと足を運んだ、色よい返事をもらえぬままに、福井先生に強引にお願いしたところ、学校側の働きかけもあつて心よくお引き受けいただいた。大阪市立大学の学長にも就任されたが、人望のある立派な人であつた。つぎには、いま学長代行の席にある大北先生、当時から学長としても恰好の人だつたが、遠慮がちなのが玉にきず、でも大北先生からいつだったか、先生は「恋愛結婚」ですか「見合結婚」ですかときいた時「もちろん恋愛ですよ」といわれた時は嬉しかった(大北先生ごめんささい)、藤原先生、浅沼先生、梅田先生、それぞれに自分とご厄介になつた。書きたい事はたくさんあるが現役だけに遠慮しておく、亡くなられた秋本先生、それに西島、風間先生など思い出に残る先生も多いが、最後に一人、われわれの年代で忘れ得ぬ先生は石川澄先生である。年がら年中、学校に寄宿、学校の主のような先生だつたが、きびしいこともきびしかった。入学してまず活を入れられたのも石川先生、成績が悪くて頭を下げていくのも石川先生、なんともおっかない先生だつたが、反面心は非常に暖い物わりのいい先生だつた。先生のご厄介になつた学生は随分といる。お酒が好きで、この方のエピソードも多い先生だつたが、石川先生もいまやなし。思い出はつきないが紙面がつきが、ご勘弁を願いたい。(松本記)



アンケート集

この原稿は、同窓会会員の皆さんからお寄せいただいたもので、事務局の名簿に... 自由にお書き下さい。という事でアンケート式の質問に対してお寄せいただいた短信です。

第一回 玉田 武美
一、至極元気で事業に励んでおります。同期の友がぼつぼつなくなるのが淋しい昨今です。

第二回 山田 博章
紀州路もようやく春を迎え父母のめぐみも深き粉河寺にも桜の花が咲き始めました。母校の隆盛誠に喜びに絶えませんが、私も第二回に卒業して早や一〇年一昔といわれますが三昔半となります。

第三回 伊藤 祐之
第三回卒業生故伊藤祐之代筆を以ってご挨拶申し上げます。毎々澗江をお送り頂き編集部の方々にはご苦勞の程お礼申し上げます。

第四回 中村 源
卒業以来サラーマン稼業一すじに今日まで頑張っております。我々四回卒業生は最も小教でありながら仲々顔を合すチャンスなく残念。同窓会は「澗江」にてお互の近況を知り合うことが何よりと考えます。

第五回 森元 康見
同期の皆様方にはお元気で各地にご活躍のことと存じます。第四回は卒業生が九四名と最も少い上、戦争による物故者が多く生存者七一名であります。

第六回 内田 新五
一、特筆すべきことなし
二、同窓会の活躍ぶりはまことに結構している。

第七回 長尾 晃
復活第一回八回生会
昨年二月十五日復活第一回の八回生会を内久宝寺の山中荘で二七年振り再開することが出来た。

第八回 佐藤 順郎
異彩を放つが同窓会
わが職場における大阪経済大学同窓会はきわめて特異な存在である。

第九回 武川 茂夫
昭和四十四年十月十二日(日曜)快晴の日に母校藤原、奥村両先生を迎え当三木地方の同窓生は集合し、久しぶりの学歌を高唱して学生時代を振り返った。

第十回 中島 春雄
去る三十二年の春から母校野球部をお世話し始めて十四年目を迎えました。微力を尽くしておりますが、未だ関西六大学入りも実現出来ず同窓生諸兄の期待に反して残念に思っておりますが今後とも

第十一回 内田 新五
一、特筆すべきことなし
二、同窓会の活躍ぶりはまことに結構している。

第十二回 長尾 晃
復活第一回八回生会
昨年二月十五日復活第一回の八回生会を内久宝寺の山中荘で二七年振り再開することが出来た。

第十三回 佐藤 順郎
異彩を放つが同窓会
わが職場における大阪経済大学同窓会はきわめて特異な存在である。

第十四回 武川 茂夫
昭和四十四年十月十二日(日曜)快晴の日に母校藤原、奥村両先生を迎え当三木地方の同窓生は集合し、久しぶりの学歌を高唱して学生時代を振り返った。

第十五回 中島 春雄
去る三十二年の春から母校野球部をお世話し始めて十四年目を迎えました。微力を尽くしておりますが、未だ関西六大学入りも実現出来ず同窓生諸兄の期待に反して残念に思っておりますが今後とも

第十六回 内田 新五
一、特筆すべきことなし
二、同窓会の活躍ぶりはまことに結構している。

第十七回 長尾 晃
復活第一回八回生会
昨年二月十五日復活第一回の八回生会を内久宝寺の山中荘で二七年振り再開することが出来た。

第十八回 佐藤 順郎
異彩を放つが同窓会
わが職場における大阪経済大学同窓会はきわめて特異な存在である。

第十九回 武川 茂夫
昭和四十四年十月十二日(日曜)快晴の日に母校藤原、奥村両先生を迎え当三木地方の同窓生は集合し、久しぶりの学歌を高唱して学生時代を振り返った。

北から南から

経済学部三回生柔道部員として元氣一杯遊んでおります。親子が同じ学校で同じ先生に教わり同じ道場で鍛えられるこの感激我が身にすぎる位です。小生ご恩報に母校同窓会役員として母校の事情に詳しくなつて来ました。我々の時代にかえれといいたい、先年同窓会役員会で菅野先生、藤田学長その他多勢の先生方の前で高商時代の名物教授のタナオロシの歌を唄った時は懐しい限りだった。同窓生よもっと手を握り母校の前途を祝おうではないか。現在の職の他、県立三木高校柔道師範で講道館七段で毎年高段者大会に出席しています。

私は昭和四十三年末に二十年間勤務した鶴山口支を円満退社し、現在鶴山口設計事務所勤めております。十五回生の同窓会にも極力出席しておりますが、毎回比較の出席者が少ないのは何とも淋しいことです。ハンドボールの試合や会合の折に若いOBや現役の諸君とも面談しておりますが、もつとOB諸兄の参加を期待致します。学園がマンモス化したことは驚くべきことですが、反面親しみが薄くなり何となく淋しい気が致します。ハンドボールの試合にも一般学生が全然応援に来ていませんし、十年一昔と申しませんが二十年余りたった今、浦島太郎のように古い良き時代の学園を懐しく思い出しております。

第十回 武内 美次

卒業時就職した武田薬品にずっと勤務しています。勤務地は大阪の本社を二七年間離れたことがありませんのに、学校の方はほとんど無沙汰して申し訳ありません。地方の方で大阪へお出かけの節はお立ち寄り下さい。同期の方々同窓の方方卒近況お知らせ下さい。

現役の方々も早く正常な勉学をして、産業界が望んでいる卒業生として社会活動されるよう祈ります。なお名簿係の方へお願い竹内ではなく武内です。原簿ご訂正下さい。皆様のご健康を祈ります。

第十一回 桑 津 昇

第一回卒業生を送り出してより三十幾年、早や四十年に達せんとしております。卒業生諸兄弟も多方面に涉つて活躍のことと存じます。もうそろそろ中央政財界はまだしも、地方にてはそれぞれ頭角を現していただけるものと想います。地方色を盛つてご紹介をされたらまた一興と存じます。如何でございませう。多少取材的には困難でしょうがよろしく。

山荘にて奥村、風間両先生のご出席を戴き出席者四〇数名にて盛大に行いました。東京より牧田氏、名古屋より津地氏、明石より野島氏等、遠路の処出席して載き有難うございました。諸兄のご話は躍目をみはるばかり、当日の呼物として福引きの賞品、婦人下着は……如何が、さぞやサービスも良きものとニヤリと思つては自分一人だけでなかるうかと思つた。次回の出席率の良きことを願ひます。

三、昨年一七、一九回の合同同窓会を山中荘にて奥村、風間両先生のご出席を戴き出席者四〇数名にて盛大に行いました。東京より牧田氏、名古屋より津地氏、明石より野島氏等、遠路の処出席して載き有難うございました。諸兄のご話は躍目をみはるばかり、当日の呼物として福引きの賞品、婦人下着は……如何が、さぞやサービスも良きものとニヤリと思つては自分一人だけでなかるうかと思つた。次回の出席率の良きことを願ひます。

第二十二回 河村 文夫 益々ご隆盛の御事お慶び申し上げます。さて、私事最近の三、四年は事情のため同窓会は無沙汰ばかり致して現状等について全くの知識不足で折角の申し入れながら取りたてて記事にすべき事項もなく悲しからずご了承下さい。貴会の繁栄と活躍を祈ります。

第二十三回 大 盛 豊

大阪経済大学の名を広めるように努力しよう。私は昭和三年三月母校大阪経済大学を卒業して、鹿児島島から南へ約四〇〇キロ離れた奄美大島のある小学校へ赴任しました。島の学校で六年間勤務し

檀の成長を祈りつつ。

第二十一回 奥山 正美

母校は多くの諸先生方、先輩、在学生、その他多くの人達のご協力やご心労のお陰を以つて、一九六九年とは無事とはいえなくとも一応どうにか別れを告げ、激動期の一九七〇年と一般に叫ばれている年を迎えて、新入生の試験も終り、日本経済の中心地である大阪で万国博覧会を催され、私達の周囲には、政治、経済、文化を問わず、目まぐるしいものがあります。またややもすれば、それらに振り回され、また振り回されそうになり勝ちでありますが、とにかく問題は残っていないとはいえず、どこか春らしくなってきた今日である。私達の先輩、同輩、後輩を問わず毎日ベストを尽くして活躍されていることと思ひます。小生も傾財兼苦死になりそうですが、どうか現状を維持しておりますのでお近くに越しの節は是非お立ち寄り下さい。また皆様の現在の生活の様子などお便りを楽しみにお待ちしております。

テレビ電話は 損か得か？

○電電公社の一〇カ年のビジョンのとおりにテレビ電話の時代がやってくる。いまやテレビ電話は、子供でも知っている。通信回線と直結しないテレビ電話は、企業間では実用化されている。ところが通信回線と直結したテレビ電話が実現するとビジネスのようすは、全く違ったものになってしまう。

○まず社長は社員をビルのオフィスに常勤させることは出来ない。テレビ電話で管理指導ができるので、社員は自宅か別荘で仕事ができる。テレビ電話のらるるが転居から日も浅いので失礼してはいます。母校は新幹線からいつもたのもしく眺める機会にめぐまれます。残念です。勤先では、三人の同窓を知るのみで他の同窓のごく交友のないことをさびしく感じています。今後は積極的に同窓との交友を増してゆきたいです。

第二十四回 林 文得

偏見であればさいわいだが……所感を一言。かえりみてわれわれの在学中に教えられし得たものといえ、経済学を中心としたものよりむしろ政治学に重きをおいたもの(謂わば政治学的経済学とでもいうべきか)が多かつたように記憶する。現況はさだかでないが、もしこの見方に在学生をも含めて同意者が多ければ本来の志向するところに立還る必要がある。何故ならわが母校は「大阪経済大学」だからである。

第二十六回 中山 圭一

この瀬江用の通信依頼がといたので

さんでいる如く見え、と同時に新しい学会が「仏造つて魂入れず」の感がしました。一日も早く正常な状態にて、隆昌の一途を辿られるよう切望します。

第二十一回 神 喜作

母校の周辺 経大寮の近くに私は住んでいます。いつも母校の発展を眺め、環境の推移を直に感じています。母校の状況については別の紙面等でご承知のことと思ひますので学校周辺のことについて少しお知らせします。十年一昔といいますが二十年前と今日では大きな変貌を遂げ、久しく母校へお越しになつていない方は驚かれることと思ひます。私たちの在校中は市バスは江口橋とどまりでしたが、今ではさらに約一キロメートル北の井高野に車庫ができて、そこが終着点になっていました。このあたりは蛙の樂園でしたが、二千余戸の団地に生れかわつていました。瑞光通五丁目から江口橋の間も住宅等が建ち並び、モヤンの温床があつた面影は今はありません。江口橋では五支路のために交通が停滞し、経大前まで車がかかえることがよくあります。阪急電車は地下鉄の相互乗り入れでダイヤは過密化し、ラッシュ・アワーには一時間に四十余本の電車が通過する「鳥頭のみまきり」は大変です。

第二十二回 河村 文夫

益々ご隆盛の御事お慶び申し上げます。さて、私事最近の三、四年は事情のため同窓会は無沙汰ばかり致して現状等について全くの知識不足で折角の申し入れながら取りたてて記事にすべき事項もなく悲しからずご了承下さい。貴会の繁栄と活躍を祈ります。

第二十三回 大 盛 豊

大阪経済大学の名を広めるように努力しよう。私は昭和三年三月母校大阪経済大学を卒業して、鹿児島島から南へ約四〇〇キロ離れた奄美大島のある小学校へ赴任しました。島の学校で六年間勤務し

第二十八回 後 藤 弘幸

毎年一、二回東京出張の際新幹線からの車窓から母校の姿を拝見するのを楽しみながら、立派な学舎の立並ぶ光景を見て学生時代をなつかしく想い出しております。在学中硬式テニス部に在部、勉学をよそにテニスに精を出していた私は、現在「川のバイオリン」川鉄の販売に精を出しております。鉄鋼関係に従事する同窓生もたくさんおられるかと存じますが、何かの都合でお会いするかと存じます。三七年の卒業生の皆さん硬式テニス部のOBの方々、元気で日々の勤務にお励み下さい。

第二十九回 進 藤 哲夫

前略 瀬江編集ご苦労さまです。小生台糖ファイザー勤務にて業のプロパー活動を行つております。母校同窓会にはいつも出席したいと思つていますが多忙のため出席出来ずいつも残念に思ひます。同窓の友人には悪友が多いためいつも電話で呼び出され、マーシヤンのかもなっている次第、最近同窓の友人とゴルフ旅行の積立をやつておりますのでマーシヤンの借りはゴルフと思つてこの雑文にも失礼致します。 敬具

第三十回 石川 政明

前略 遅くなり申し訳ありません。今年も母校より三名の後輩を迎えました。若しくは十日間の基本研修を終え各営業店に配属され各々の営業店での経大の先輩に銀行員としての実務、マネーの指導を受けております。企業の発展と共に支部員の数も漸次多くなり、現在三名になつております。今後多くの後輩の方々を迎えたく、また迎えられるよう支部員の方々と力を合せ企業の発展に努めます。 住所 大阪府泉南郡熊取町久保 五七一

北から南から

第二十三回 奥 沢 正雄

昨年末、神戸電鉄沿線の緑が丘から神戸市と明石市にかけてできた明舞団地に転居してきました。同団地に同窓もおら

第二十六回 中山 圭一

この瀬江用の通信依頼がといたので

第三十三回 池内勝利
原稿のご依頼をいただき感激いたしました。

一、昭和四二年三月に卒業し三年経ちましたが、やっと社会の水にもなれ教育の畑で頑張っています。先日当地方紙に経大合格者がのっていました。年々愛媛県からも入学者が増えている様子なので非常に喜んでます。

二、同窓会に希望するのですが新聞等に経大の名を見る時は同窓の一人として非常にうれしいのですが、もっと多く同窓会誌等を発行して学校の様子を知らせて下さい。

三、四月に卓球部で活躍された宮脇君が結婚するのですが、藤原先生はじめ旧友にお会いできるのを楽しみにしています。また我が今治にも経大OBが沢山いるのですが時々母校のことをなつかしく語り合っています。母校の発展をお祈りします。

最後に我が今治は後に四国山脈、前には瀬戸内海(米島海峡)と非常に美しく野球等(クラブ)のキャンプには最適です。ぜひ一度お越し下さい。

第三十三回 阿部 満

一サラリーマン生活四年目、大阪での学生生活四年を限りに都会生活に別れを告げ、生れた土地に帰り本当に良かったと思っています。

どんな所に行っても、その土地、学校に誇りが持てるという事は良いことだと思います。その点からも同窓会が中央中心にならないことを願い地方を忘れないでほしいと思います。

また地方の同窓生も積極的に同窓会行事に参加すべきです。同窓会には皆のものです。母校に誇りを持ち与えられた場所での柱となる。

第三十五回 荒井 徹治

在学中は準硬式野球部で活動いたしておりましたが、現在は喫茶業に入った関係上特に太陽の下での運動不足で、日々身体がなまりがちです。2週に一度の休日や何か屋外でのスポーツで過ごすよう心掛けておりましたが、その度毎に身体が張ってつらいことです。今日も今日とて「びわこバレイ」でのスキー、根が悪いせいか、たった一日位でサンダラスの影を残して真黒に日焼けし、まるでメガネザル、その上膝はガクガク、腰フラフラと疲れ果て、なんともつらいスポーツです。しかし次の休日また「スキー」にと痛い足腰さすりながら道具の手入れに余念がありません。諸兄方々もご健康には十分留意されませう。



▽例年、せめて青葉の季節には発行したいと思いつながら、ついに今年も「澗江」の出来上がり。

▽それに今年の澗江編集にあたっては、いろいろと問題があった。同窓会最大の行事である総会が無期延期になったこと、その原因である長期の学園紛争が続いたこと、等々予想外の事態の続発に、編集企画もすっきり振りまわされてしまった。

▽また原稿を印刷所に渡す段階で突如大北学長代行の死去という、突発事があった。大北先生は文字通り母校の生字引きであり、学園にとっては最大の恩人だった。先生の追悼のページを急遽設けたが、先生の逝去によって、母校の前途も多難である。いまこそ、同窓会も力を結集して、母校の発展のためにつくすべき時だと思ふ。

▽あれや、これや材料はたくさんあったが、うまくこなし得ず、雑ばくなものとなったが、お許しを願いたい。(松本記)

46年度入学試験概要

1. 募集学部・試験日・試験地 (1.2部共・男女)

学部	試験日	試験地
経済	2月16日(火)	大阪 姫路 広島 高松 福岡 名古屋 金沢
経営	2月17日(水)	

2. 試験科目・時間 (1.2部共・男女)

学部	科目	備考	配点(計500点)	解答時間
経済 経営 (1.2部共)	英語	英語 B	200	80分
	国語	現代国語・古典乙I(但し古文のみ)	150	70分
	社会 (1科目 選択)	倫理・社会、政治・経済、日本史、世界史B、地理 B、商業一般、簿記(選択科目は出願時に届出る)	150	70分

3. 出願期間 (郵送出願に限る)

1月18日(月) - 2月10日(水) (17時必着の事)

4. 学 費

内容	1年次総額	分割のばあい 入学時納付金
1部(昼)	130,100円	90,000円
2部(夜)	56,100円	42,000円

◎2年次は 1部(昼)約82,600円 2部(夜)約33,500円

(46年度募集要項は 11月1日発行予定・ご照会は下記へ)

大阪経済大学広報部

大阪市東淀川区大隅通2丁目10番地(〒533)
電話 大阪 06(328)2431代

澗江 第6号

昭和45年8月25日発行

発行人 渡辺 達 好
発行所 大阪経済大学同窓会
大阪市東淀川区大隅通2丁目
電話 (328) 2431~3番
印刷所 共成社印刷株式会社
大阪市北区葉村町40番地
電話 大阪 (371) 0254番

学 歌

作詞 故秋本吉郎(元本学教授)
作曲 柴田南雄(東京芸術
大学教授)

一 大淀の

水は春ゆく ゆたかな春だ
芽立つ葦原 緑がしみる
この若さ
希望は明るい 蒼空かけて
永遠の青春 みなぎる学園
大阪 大阪経済大学

二 大樟の

蔭は裕々 夏風そよぐ
学徒師弟が 幹負ひもちて
諸汗に 確つかと植えた 融和の象徴
繁れ自由の 花さく学園
大阪 大阪経済大学

三 そびえたつ

白亜の殿堂 秋空高い
澄んだ心に 鐘なりわたる
晴れ空だ
ひらく真理の 扉につどふ
面はかがやく 求理の学園
大阪 大阪経済大学

四 濛標

世界の商都の 入船出般
水先みちびく 経済実践
前途はるか
氷る潮路も 乗切る気力だ
自由で揺がぬ 自立立つ学園
大阪 大阪経済大学

逍 遙 歌

作詩 中村 行男
作曲 松川 圭一

(一) 此処城北に迎えたる

紺碧淀の春の夢
惜春の賦のたよえば
薫風静かに流れ来て
逝きし苦節の十余年
歴史は吾等に教うなり

(二) 水やにこれる人の世に

真理求めて遊ぶ子の
友愛久遠に変わらまじ
汝が悲しみに我は泣き
吾が喜びに君や舞う
惜みて励め我が春を

(三) 集いの庭を共にせし

我が学舎の乙女子は
愁の時は過ぎ去りて
理想の遠地にひたぶるに
幸を求めて馳けるとや
感激新たな此の曲に

(四) 虫の音すたく秋来れば

小川こよなくさびた、え
こち吹く風に花なびき
自然したいて逍遙の
尋ぬる途は遠くして
薙露人生はかなしや

(五) 乱る金剛枯風の

叫ぶ野嵐粉吹雪
緑定石に佇ずめば
無言に教うる朔風の
肌にしびしき鞭なれど
懐古楽しや語り草

(六) 霜ふみ通うこの朝

暮る、易きやこの夕
真冬寒波の寄せ来てや
淡き光のいざないに
汝が故郷を偲ぶれば
鐘の音さびし瑞光寺

(七) 小鳥が森に歌うとも

小羊野辺にたわむとも
さすらい旅の此の世には
花びら風に待たずして
春や心の乙女子は
はかなき恋に泣くとかや

(八) 想いめぐりて尽きぬ時

緑が原に人訪えば
落葉か、れる語らいに
愁憂の声今はなく
新たに目醒むる者のみの
微笑は花に映ずなり



大阪経済大学同窓会誌

NO. 6